



事業計画及び成長可能性に関する事項

株式会社フツパー

東証グロース市場 (478A) 2025.12

資料目次

- 1 実績
- 2 会社概要
- 3 事業の概要
- 4 課題解決と市場
- 5 ビジネスモデル
- 6 ユースケース
- 7 競争力の源泉
- 8 成長戦略
- 9 財務情報
- 10 リスク情報・IPOの目的及び資金使途

エグゼクティブ・サマリー

業績サマリー

- FY2025Q3累計の実績は、売上高7.50億円（前年同期比111%）、売上総利益4.90億円（前年同期比144%）、経常利益2.12億円（前年同期は▲0.67億円の赤字）で着地
- 営業利益率27%、受注残高5.62億円、今期取引社数125社
- 通期予算は、売上高12.69億円、売上総利益8,14億円、経常利益3.46億円

注目ポイント

- 高い売上高成長率（過去3年のCAGRが108%）と高い継続顧客売上高比率（74%）を維持
- 組織全体のエンジニア比率が6割以上を占めるテクノロジー集団であり、確かな技術力に支えられた高い顧客満足度の結果、主力商材であるメキキバイトのサブスク解約率はわずか0.76%と極めて低水準で推移
- 市場は依然としてブルーオーシャン、国内DX市場は9.2兆円規模と巨大な一方、顧客の77%が製造業の当社がターゲットとする製造DX市場1.5兆円に対し、現在の売上浸透率はまだ1%未満に留まり、業績拡大の余地は極めて大きく、競合とのシェア争いのフェーズにはまだ入っていない
- 蓄積される独自データ（インターネット上には存在しない現場起点のデータ）を活用することで、AIの精度は継続的に向上し、他社が模倣できない強固な参入障壁（モート）を築いている状況

2 会社概要

株式会社フツパーについて

- 1 実績
- 2 会社概要**
- 3 事業の概要
- 4 課題解決と市場
- 5 ビジネスモデル
- 6 ユースケース
- 7 競争力の源泉
- 8 成長戦略
- 9 財務情報
- 10 リスク情報・IPOの目的及び資金使途

創業ストーリー

製造業は国内GDP2割を占める基幹産業
その最大課題である人手不足を
テクノロジーで解決

創業当初の課題感



実社会へのAI導入が進まない
大半がPoC止まり、価格も高額
製造業の人手不足が深刻
人がこない、職人は高齢化
地方、中小企業でDXが進まない
サプライチェーンの維持が困難

世の中的にはAI技術が注目される中で
実際の現場にはほとんど導入されていない

全ての製造現場で使えるAIサービス（メキキバイト）

いつでも解約可能な月額課金制



PoCで終わらず、費用対効果が見込める

製造業特化のワンストップ支援



必要なハードとソフトに全て対応

現場とクラウドのハイブリッド



機械的制御は現場完結のエッジAI、人が取り扱う情報はクラウド提供

モノづくりシステムのこれまで



MISSION

最新テクノロジーを 確かな労働力に

会社情報



社名	株式会社フツパー（英文名：Hutzper Inc.）
創業日	2020年4月1日
資本金	2.4億円（資本剰余金含む 8.2億円）
代表者	大西 洋
社員数	90名（アルバイト・インターン含む ※2025.10.31時点）
事業概要	製造業向けAIサービスの提供
事務所	大阪本社：大阪府大阪市淀川区西中島1-11-16 関東支社：東京都中央区東日本橋2-27-24
取得資格	ISO/IEC 27001:2022 および JIS Q 27001:2023（ISMS認証） 認証登録番号：IS 811223 認証事業所：大阪本社および関東支社 認証取得日：2024年10月21日

受賞歴及び最新ニュース

2025
04/26 大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン
リボーンチャレンジ「大阪超越文化横丁」出展

出展テーマ: 10年後の最新テクノロジーを駆使した町工場



大阪・関西万博「大阪ヘルスケアパビリオン リボーンチャレンジ」内、『大阪超越文化横丁』に出展。

当社はCHALLENGE 2〈デジタル・環境〉にて、テーマ「10年後の最新テクノロジーを駆使した町工場」を展示し、AI・ロボットを実装した“使える現場DX”を紹介しました。

2025
05/16 Forbes 30 Under 30 Asia 2025 「AI部門」選出

当社取締役兼CTO 弓場一輝が選出



アジアを代表する若手リーダーを選出するForbes 30 Under 30 Asia 2025 (AI部門) に、当社CTO 弓場一輝が選出されました。

4,500名超の推薦から、Forbes Asia編集部と外部有識者の審査を経て10部門・計300名が選出されています。

受賞コメント

このたび、世界的に名誉ある「Forbes 30 Under 30 Asia 2025」に選出していただき、大変光栄に存じます。これまで共に挑戦を重ねてきた社内の仲間たち、ご支援くださる投資家の皆様、そして私たちのプロダクトをご導入いただいているお客様に、心より感謝申し上げます。

弊社は、「最新テクノロジーを確かな労働力に」というミッションのもと、最先端の技術を現場で本当に使えるかたちに落とし込み、社会の生産性向上に貢献するプロダクトの開発に取り組んできました。

今回の受賞を励みに、これまで以上にプロダクトの品質と実用性を高め、より多くの価値を社会全体に届けられるよう、一層邁進してまいります。

※ 出典: Forbes 30 Under 30 Asia 2025

2025
10/07 CEATEC AWARD 2025
「ネクストジェネレーション部門賞」受賞

ロート製薬・フツパー共同開発 研究開発AI『リアラボAI』



リアラボAI

ロート製薬と共同開発した研究開発AI「リアラボAI」が、CEATEC AWARD 2025 ネクストジェネレーション部門を受賞。

標的探索から解析・処方設計、実験ロボット制御までを一貫支援する統合型AIエージェントとして評価されました。



メンバー紹介

在籍メンバー

(2025.10.31時点)

バックオフィス

ビジネスサイド

エンジニア

90名

※ アルバイト・インターン含む

- ・ AIエンジニア
- ・ 画像処理エンジニア
- ・ 光学エンジニア
- ・ 電気回路/制御エンジニア (PLC等)
- ・ ハードウェア設計エンジニア
- ・ データサイエンティスト
- ・ 現場DX PJマネージャー
- ・ 品質管理部出身メンバー
- ・ 生産技術部出身メンバー
- ・ 戦略コンサルタント

経営メンバー

代表取締役CEO

大西 洋

兵庫県出身。新卒で日東電工に入社。その後イスラエルで起業失敗し、帰国後、工場向けAI/IoTベンチャーの事業開発グループリーダーを経て、弊社設立。

MENSA会員。ソフトバンクアカデミア外部12期生。

取締役COO

黒瀬 康太

大分県出身。在学中には自動車プレス工場での勤務経験あり。前職は日本IBMにて多数のAI導入案件に従事。

お客様満足度調査にて3期連続の最高評価を受賞。後に共同創業。

取締役CTO

弓場 一輝

広島県出身。広島大学大学院先端物質科学研究科卒業。研究内容はゲノム編集。新卒で共同創業。NVIDIA「GTC 2020」登壇実績や総務省の案件実績あり。

「Startup CTO of the year 2023」ファイナリスト選出。

「Forbes 30 Under 30 Asia 2025」選出。

取締役CFO

高木 真一郎

京都府出身。在学中に公認会計士試験に合格、新卒であずさ監査法人へ入所。約8年間勤務した後、事業会社にて執行役員経理マネージャーとしてマザーズ上場に貢献。2022年1月よりフツパーに参画。

メンバー紹介

在籍メンバー

執行役員 / 西日本AIエンジニアリング部 部長

山本 泰弘

新卒で画像検査装置メーカーに入社。

その後製造業に転職、海外拠点でノウハウを伝えながら外観検査自動化チームで勤務、外観検査だけでなく生産管理やIoTシステムの国内外での開発導入に従事、2022年1月よりフツパーに参画。

CSO

杉山 琢哉

東京大学工学部機械工学科卒業。2005年にアクセンチュアに入社。戦略コンサルティング部門でシニアマネージャーとして製造・小売業向けに成長戦略、新規事業、デジタル戦略等を手掛ける。

2018年よりTBMにて新規事業やリサイクルプラントの立ち上げ業務に従事。

2023年12月よりフツパーに参画。

データサイエンス部 部長 / テクノキング・オブ・フツパー

今井 亮太

大阪大学基礎工学部システム科学科卒業後、同大学修士課程を修了。画像生成モデルを用いた自身の研究をコア技術とした大学発ベンチャーの発足に携わる。

新卒でエムスリーにデータサイエンティストとして入社、製薬マーケティングにおけるデータ分析等に従事。2022年3月よりフツパーに参画。

技術顧問 / カーネギーメロン大学 創始者記念全学教授

金出 武雄

1974年に京都大学 大学院工学研究科 博士課程修了。京都大学助教授を経て、カーネギーメロン大学教授、ロボット研究所所長、現在はカーネギーメロン大学 創始者記念全学教授。

産業技術総合研究所 名誉フェロー、京都大学高等研究院 招聘特別教授。これまでWeRide.ai、Mujin、TELEXISTENCE等で技術顧問。

社外取締役 / 監査等委員

社外取締役

渋谷 順

(株)スマートバリュー取締役兼代表執行役社長。(株)菱和商工に入社後、(株)堺電機製作所へ入社、2003年より同社の代表取締役。町工場からITサービス業へ事業転換を図り、2015年に株式上場。オープンガバメントやモビリティIoT領域、さらに公共財のプロフィットモデルやスポーツ×ITの事業化等を手掛ける。

社外取締役（常勤監査等委員）

釜谷 芳充

公認会計士。2006年にEY新日本有限責任監査法人へ入所。

2021年に退所後、非常勤監査役として当社に参画、2023年4月より常勤監査役に就任。

社外取締役（監査等委員）

廣瀬 雄二郎

新卒でNTTへ入社、NTTソルマール(株)の代表取締役として新事業創出に従事。以降はNTT西日本の常務取締役やNTTビジネスソリューションズ(株)の代表取締役を経て、日本IBMとの合併会社である日本情報通信(株)の代表取締役に就任。

その後、NTT西日本常勤監査役監査役会議長を2022年6月まで務める。

社外取締役（監査等委員）

氏家 真紀子

弁護士。2011年に梅ヶ枝中央法律事務所に入所。2018年にパートナー就任。

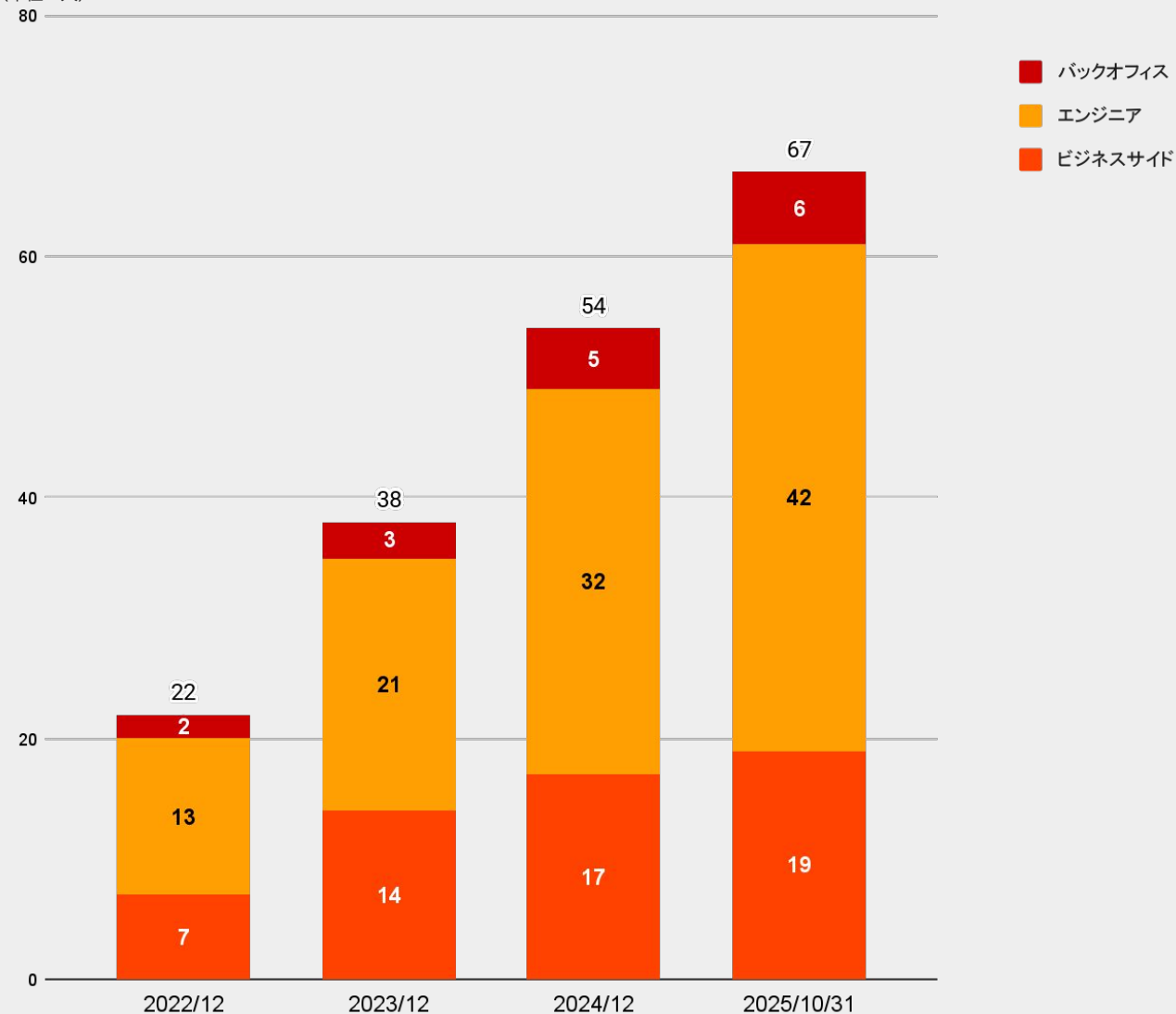
M&A、金融法務、株式に関連する紛争、資本業務提携や公開買付での意見表明、買収防衛策の導入など、幅広い企業法務の案件を取り扱う。

正社員数の推移

POINT

サービスの安定供給および継続的なプロダクト開発のため、エンジニアを中心に各部門バランスよく採用活動を継続。

(単位：人)



※ インターン・アルバイト除く

3 事業の概要

事業成長の軌跡と現状

- 1 実績
- 2 会社概要
- 3 事業の概要**
- 4 課題解決と市場
- 5 ビジネスモデル
- 6 ユースケース
- 7 競争力の源泉
- 8 成長戦略
- 9 財務情報
- 10 リスク情報・IPOの目的及び資金使途

KPI実績（3Q累計）

POINT

売上高は**750百万円**（前年同期比**+111%**）、営業利益率は**27%**の**203百万円**（前年同期は71百万円の損失）の**増収増益**となった。

現場に入り込んだ価値提供により、継続的な取引を実現、継続顧客売上高は**552百万円**に達した。一方で、新規引き合いも強く、当該年度の取引社数は前年同期比**38社増**の125社となった。

安定した収益基盤を確立できており、通期の予算達成見込みも高い。

売上高

750百万円

前年同期比+111%

（前年同期は**355**百万円）

営業利益

203百万円

営業利益率 27%

（前年同期は**▲71**百万円）

受注残高

562百万円

前年同月比+73%

（前年同期は**325**百万円）

取引社数

※当該年度のみ累計

125社

前年同期比+38社

（前年同期は**87**社）

継続顧客売上高 ※3

552百万円

前年同期比+249%

（前年同期は**158**百万円）

ライセンス収入 ※1

62百万円

前年同期比+28%

（前年同期は**48**百万円）

※1 ライセンス収入：AIプロダクトの月額利用料の合計（主にメキキバイトのHutzper Insight、スキルパズルの利用料）

※2 新規顧客売上高：当該年度のライセンス収入を除く新規顧客（過年度に取引のない顧客）からの売上高

※3 継続顧客売上高：当該年度の売上高 - 当該年度のライセンス収入 - 当該年度の新規顧客売上高

主として過年度に取引した顧客からの別の製造ラインにかかるAI構築や過去実施した分析案件の次フェーズの売上等より構成される。

KPIの選定理由

持続的な成長と収益性の確保のため、以下の指標を重要視しております。

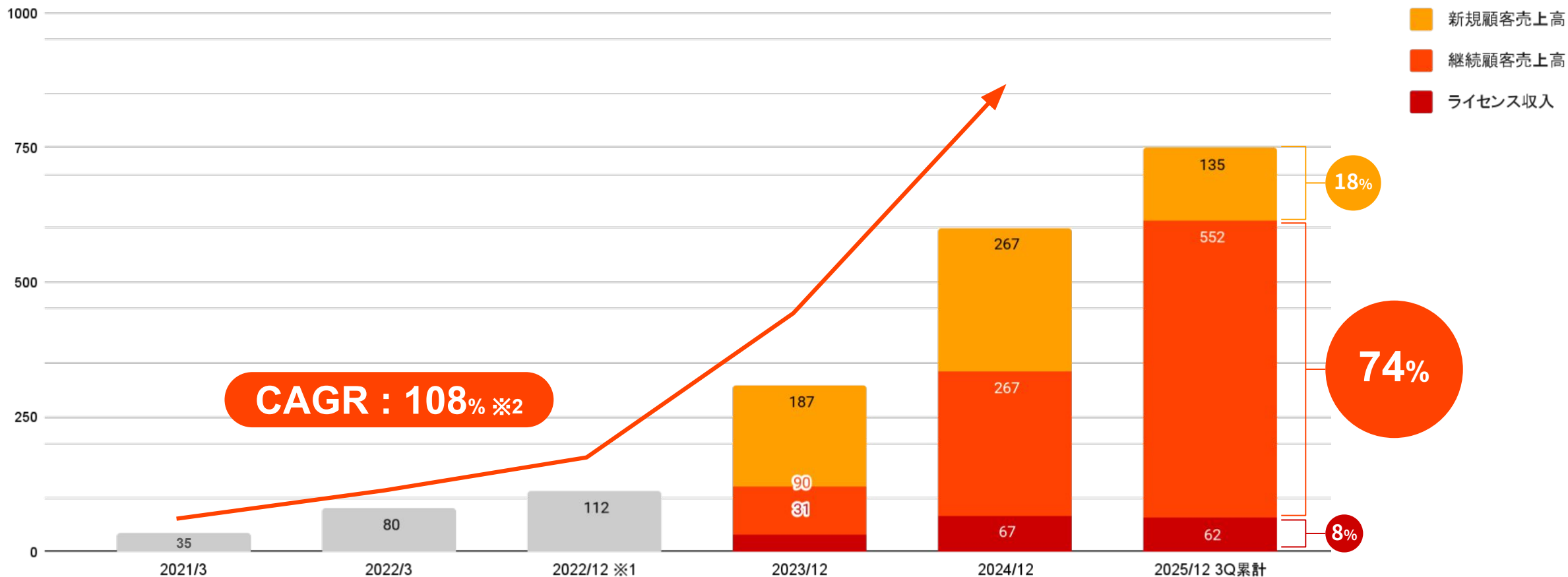
主要な経営指標	目的
売上高	市場への浸透度及びその成長性をモニタリング
営業利益	収益性及び付加価値をモニタリング
受注残高	継続的な事業拡大の観点から、それぞれの指標をモニタリング ・ 将来の成長性及び収益性 ・ 新規顧客の開拓 ・ 継続顧客の深堀 等
取引社数	
継続顧客売上高	
ライセンス収入	

なお、当社は現在成長過程にあり、個々のサービス単位ではなく全社的な視点から経営指標を設定・管理しております。そのため、サービス別のKPIを開示することは当社の実態を必ずしも適切に反映しないと判断し、全社ベースでの指標を開示しております。また、事業規模や事業構成の変化に伴い、各種KPIが每期大幅に変動しております。このため、過年度の数値を含めた場合に一時的な変動が過大に強調されるおそれがあることから、直近2期分の数値のみを記載しております。

売上高成長率と継続顧客売上高比率

POINT 高い売上高成長率と継続顧客売上高比率を維持。新規顧客は少額取引から積み重ねて拡大していく傾向にあり、事業の安定性とスケーラビリティを両立。

(単位：百万円)



※1 2022/12期は決算期変更につき、9ヶ月間の実績

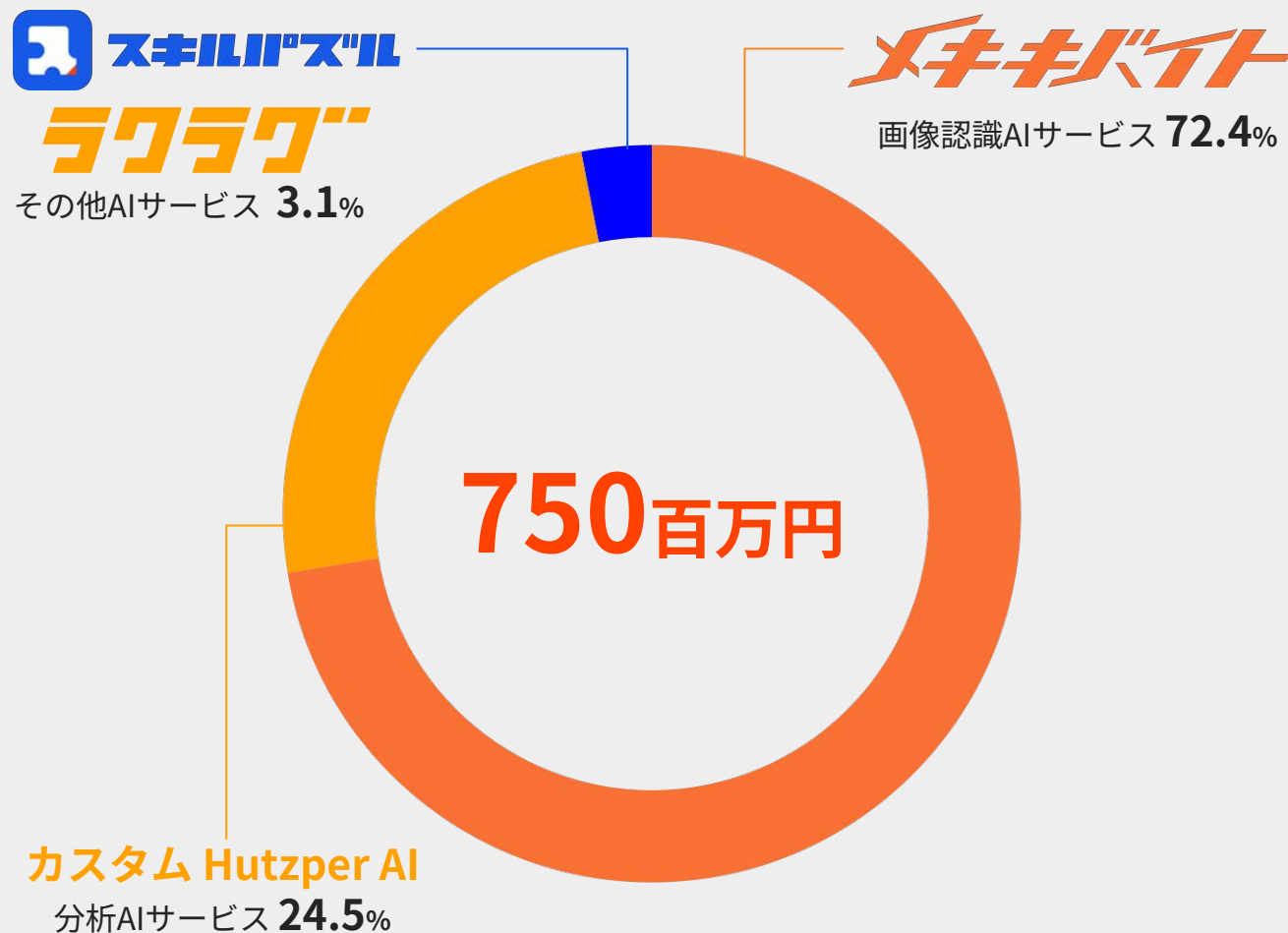
※2 2021年1月から2024年12月までの1年間の暦年の成長率

※3 2021/3期から2022/12期については、区分別の売上高を記載しておりません。また、会社計算規則の規定に基づき算出した各数値を記載しておりますが、当該数値については、金融商品取引法の規定に準ずる監査を受けておりません。

03 | 事業の概要

売上高のサービス別構成

(2025年12月期3Q実績)

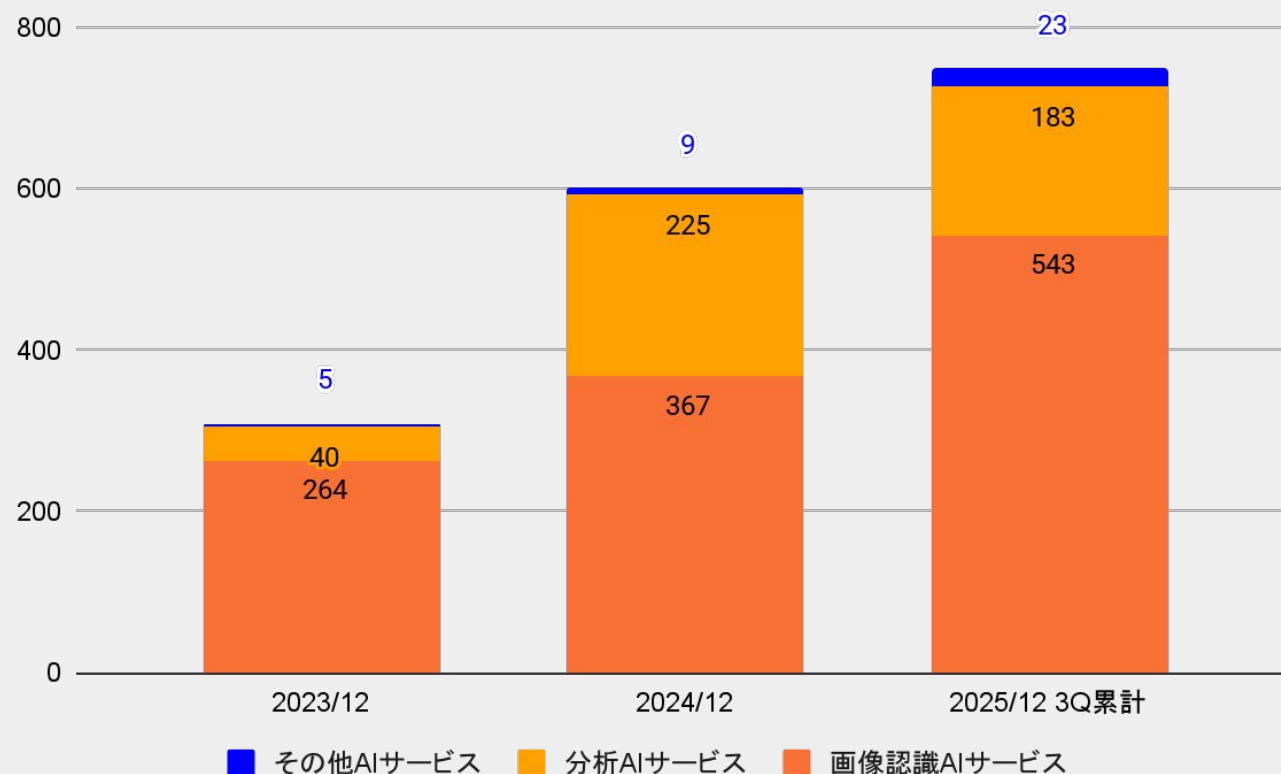


POINT

外観検査AI「メキキバイト」を中心とする画像認識AIサービスが売上高全体の大半を占める。主にエンタープライズ向けのAI構築を行う**分析AIサービス**が30%弱、残りは新規商材である人員配置AI「スキルパズル」、ローカルLLM「ラクラグ」が占める構成。

サービス別売上高の推移

(単位：百万円)

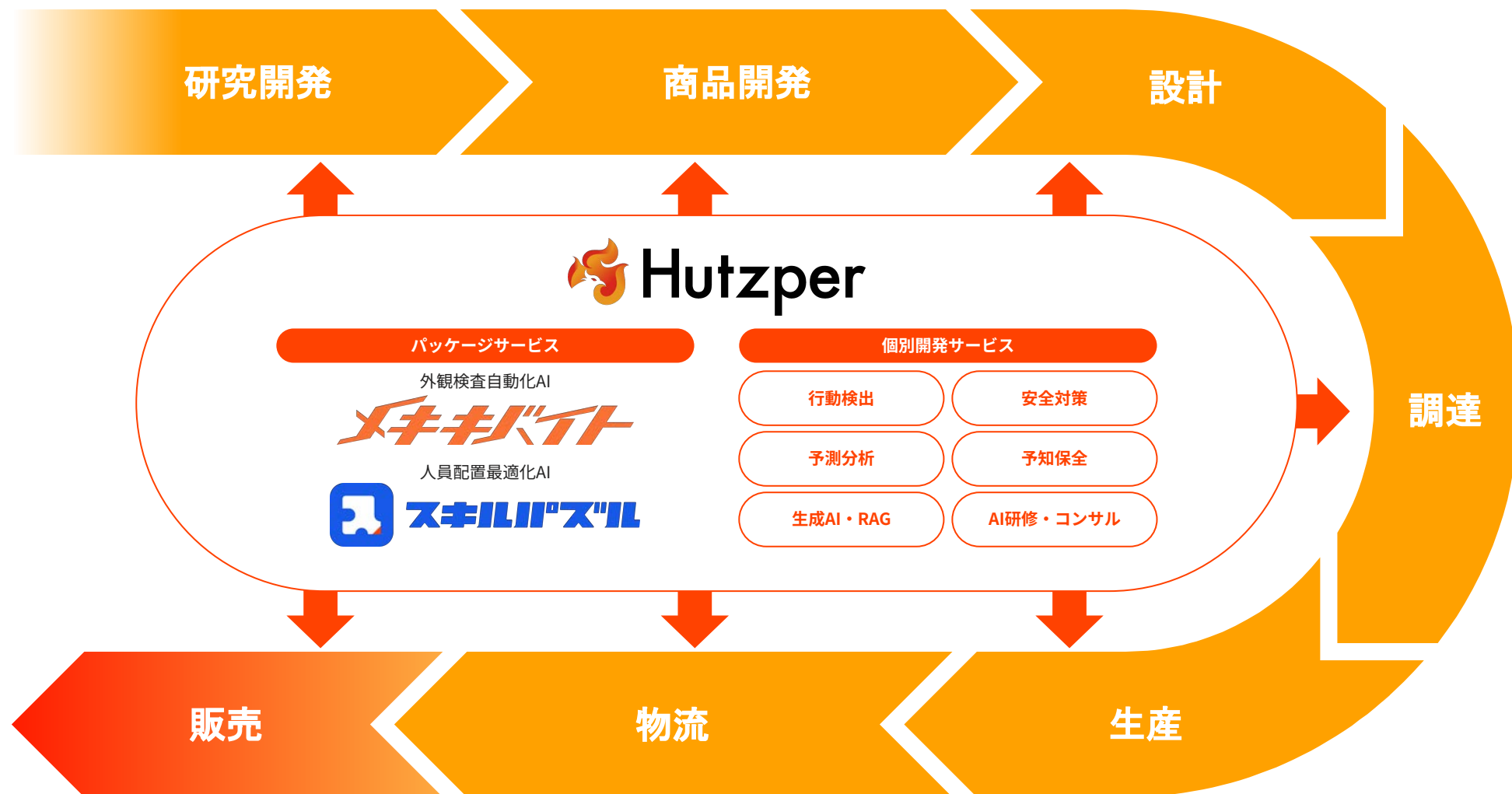


POINT

創業期より**メキキバイト**を中心に事業を展開。2022年の**資金調達**を元に採用・広告等の**先行投資**を実施。2023年からは**分析AIサービス**をはじめとした各サービスで中規模～大規模の**顧客が増加傾向**に。以降、東京進出や複数プロダクトの開発、**資本業務提携**など、各サービスの**業績は堅調に推移**。

支援領域

パッケージサービスは生産領域を中心に導入、個別開発で周辺領域のニーズにも対応
製造業DXにおける**個別最適**から、サプライチェーン**全体最適**までを包括的にサポート



4 課題解決と市場

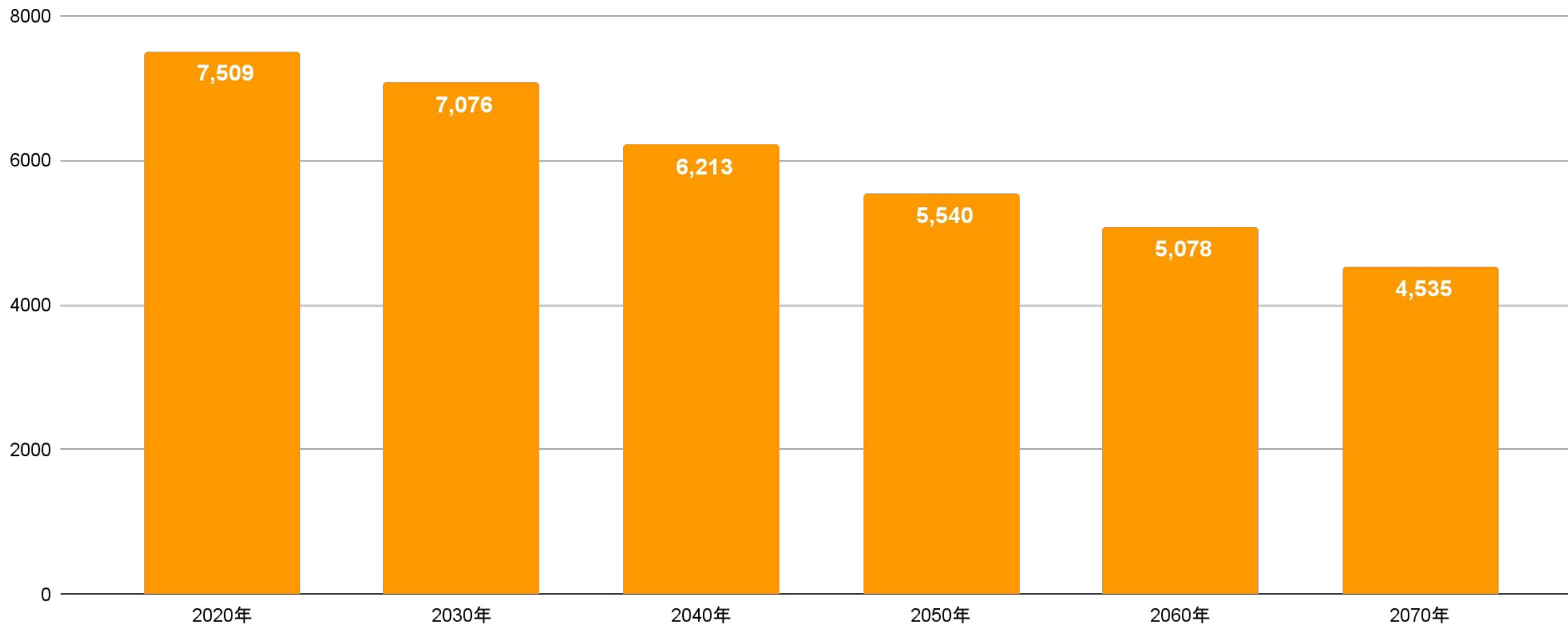
製造DX市場の拡大と課題解決ニーズ

- 1 実績
- 2 会社概要
- 3 事業の概要
- 4 課題解決と市場**
- 5 ビジネスモデル
- 6 ユースケース
- 7 競争力の源泉
- 8 成長戦略
- 9 財務情報
- 10 リスク情報・IPOの目的及び資金使途

少子高齢化により日本の生産人口は減少の一途をたどっており、労働力不足が深刻化

(単位：万人)

生産年齢人口(15～64才)の推移



(出所) 内閣府「令和7年版高齢社会白書(全体版)」

製造業は**国内最大の産業**であり、製造業の人手不足の課題を**テクノロジー**で解決

企業社数

34万社

売上高

387兆円

従業者数

880万人

(出所)総務省統計局「令和3年経済センサス- 活動調査」

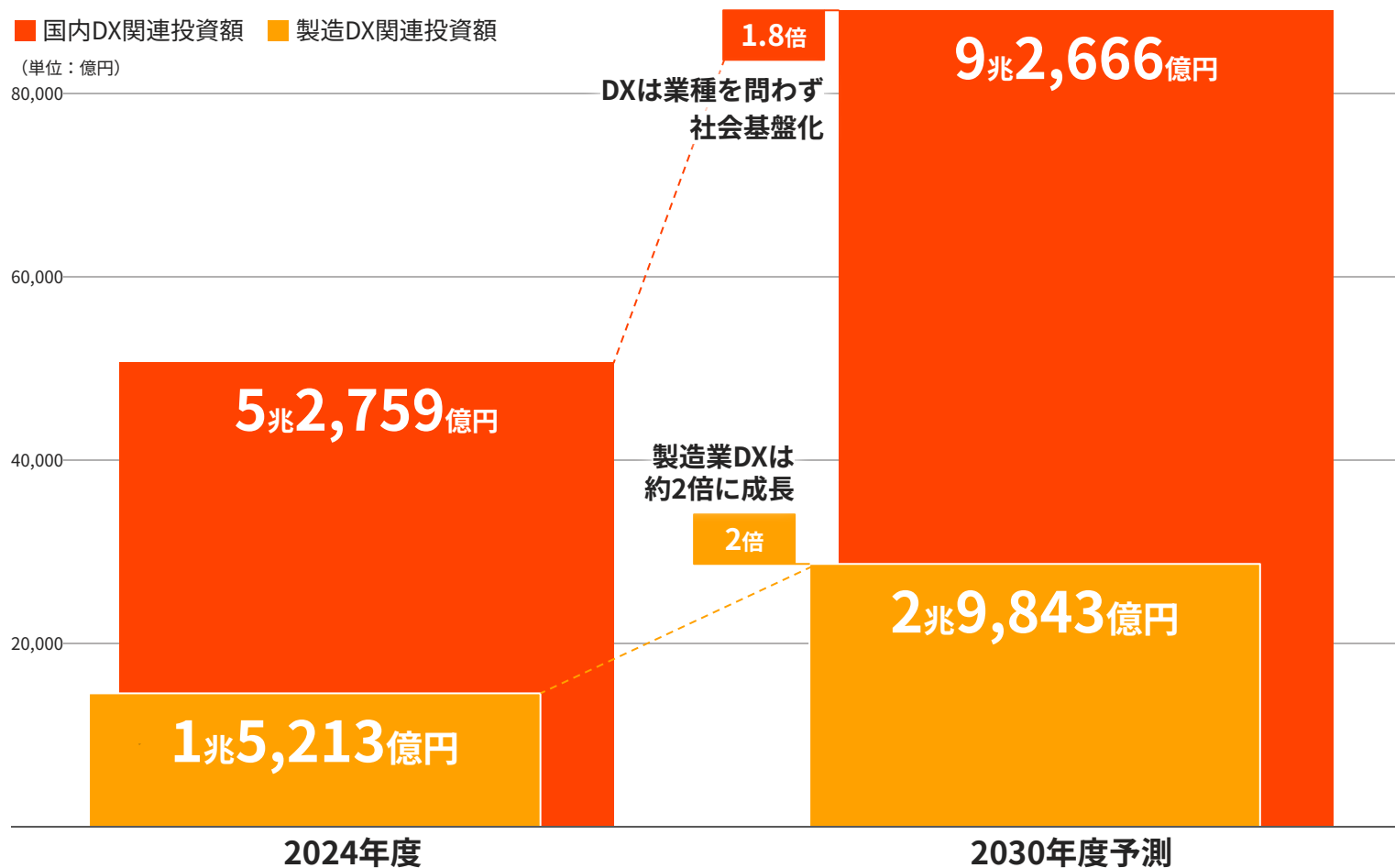
DX市場関連投資額

国内DX市場関連投資額は9兆2,666億円規模へ拡大、2030年には約1.8倍成長見込み

国内DX関連投資額

■ 国内DX関連投資額 ■ 製造DX関連投資額

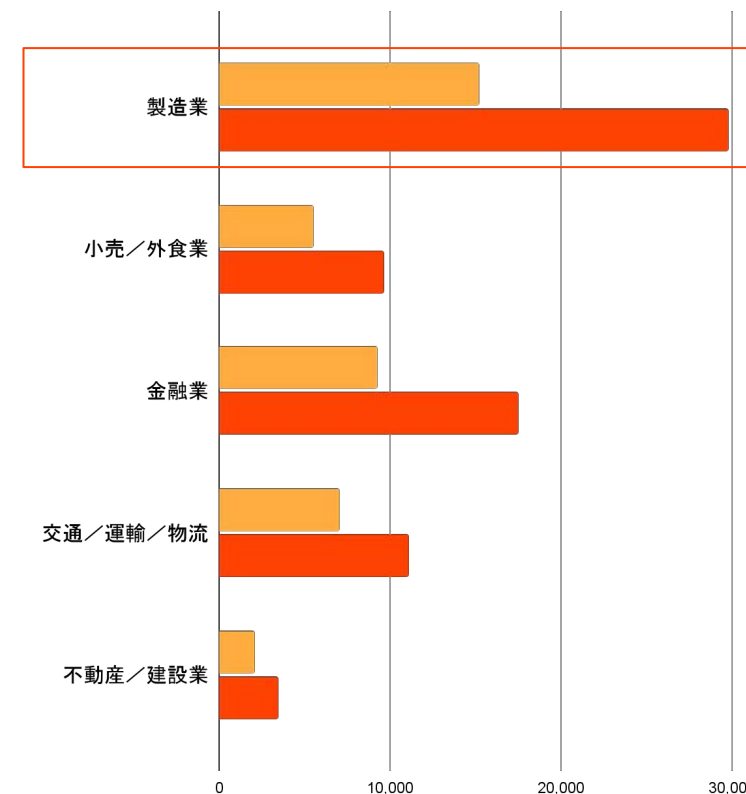
(単位：億円)



業種別 2024年度比較 約2倍増加予測

(単位：億円)

■ 2024年度 ■ 2030年度予測



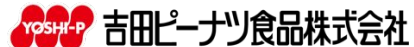
主要取引先一覧

POINT 製造業を中心に特定の業界に偏ることなく、中小から大手まで幅広い顧客層に対してサービス提供ができています。

食品製造



SUZETTE



自動車・機械



TECHPORT

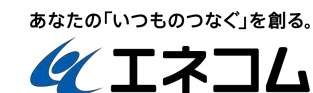
NITTOU

MITANI

運輸・物流



通信・インフラ・その他



化学・繊維・医薬品



鉄鋼・金属



電機・電子部品

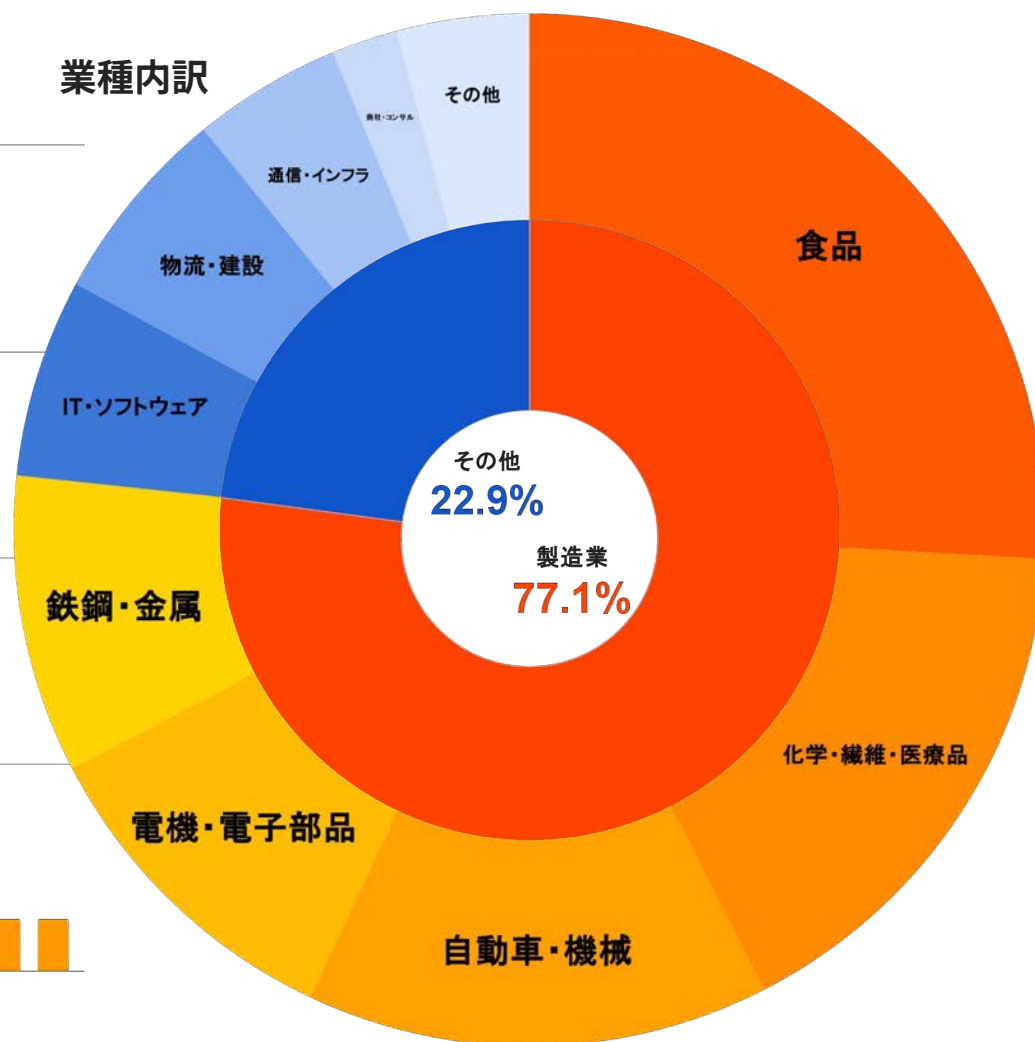
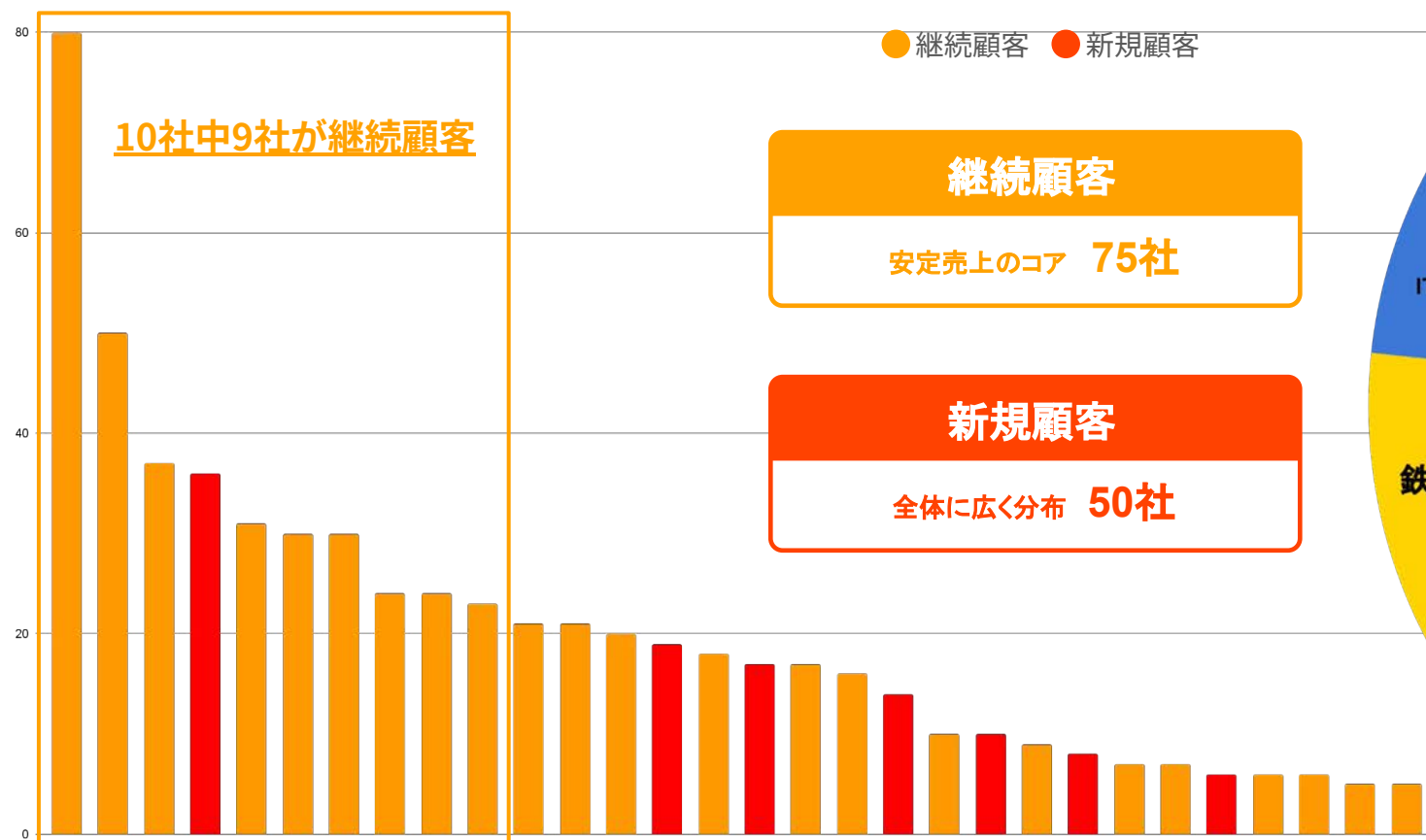


分散された顧客基盤

POINT

特定の得意先に依存することなく、顧客が分散されており、安定した顧客基盤を有している。
 売上高上位の取引先は既存顧客中心であり、新規顧客は少額取引から始め、信頼を積み重ねて拡大していく傾向。

(単位：百万円)



※1 売上高分布は上位30社を記載しております。

※2 2025年12月期3Qの売上高分布、業種内訳を記載しております。

5 ビジネスモデル

取扱製品のご紹介

- 1 実績
- 2 会社概要
- 3 事業の概要
- 4 課題解決と市場
- 5 ビジネスモデル**
- 6 ユースケース
- 7 競争力の源泉
- 8 成長戦略
- 9 財務情報
- 10 リスク情報・IPOの目的及び資金使途

サービス紹介

画像認識AIサービス

メキキバイト



高精度AIの開発はもちろん
撮像や排除までサポート

製造業の外観検査をAIで自動化。撮影→検出→排除→品質管理まで一気通貫で対応し、検査工程の人手不足と品質バラツキの課題を解決。すでに食品・電子部品など複数業界に導入実績あり。

分析AIサービス

カスタムHutzper AI

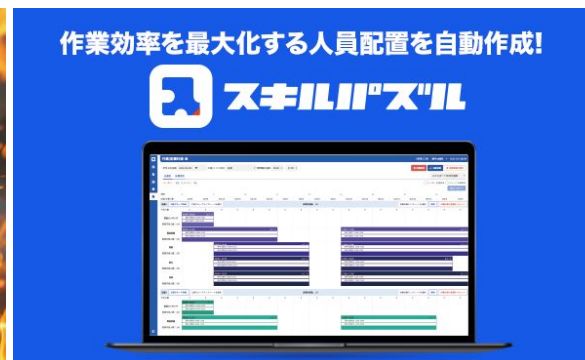


“業務理解”×“最新テクノロジー”で
費用対効果にこだわった伴走支援

最新のAI技術(RAG・生成AI等)を活用し、データ分析からアクション設計まで支援。顧客ごとの業務フローに深く入り込み、事業課題に対して具体的な改善施策を構築。

その他AIサービス

スキルパズル



人的相性や作業負荷まで考慮し
現場が納得感のある計画を実現

工数・スキル・勤怠状況をもとに、最適な人員配置案をAIが即座に提案。工場現場での人材不足と配置の属人化を解消し、生産性を大幅に改善。

ラクラグ



セキュリティ対策と精度を両立
様々な業務を安全に効率化

安心のローカル環境で、社内に眠る膨大な資料・ナレッジ・画像データを有効活用。独自の情報抽出技術・クエリ補強技術により、高い回答精度を実現。

サービスごとの収益構造

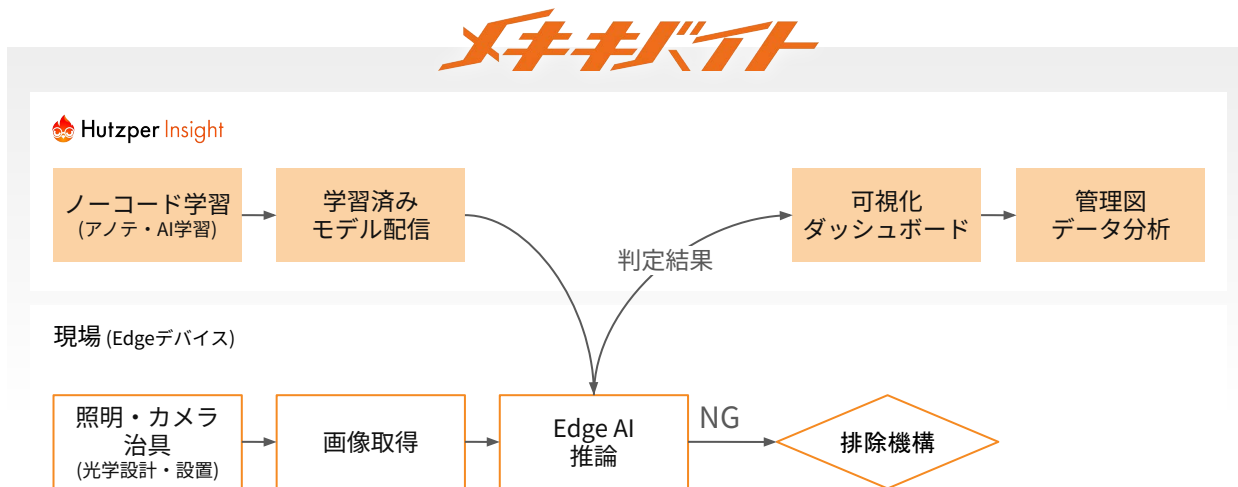
サービス	内容	主な原価
画像認識AIサービス	<div>ハードウェア</div> <div>メキキバイト</div> <div>買い切り</div>	ハードウェアの材料費 エンジニアの person 費 インフラ維持費 等
	<div>AI構築+ソフトウェア</div> <div>Hutzper Insight※</div> <div>サブスク or 買い切り アプリライセンス ライン数に応じた従量課金制</div>	
	<div>メキキバイト以外の 画像認識AIサービス</div> <div>AI構築+ソフトウェア</div> <div>買い切り</div>	エンジニアの person 費 等
分析AIサービス	<div>CUSTOM Hutzper Ai</div> <div>AI構築+ソフトウェア</div> <div>買い切り</div>	エンジニアの person 費 等
その他AIサービス	<div>スキルパズル</div> <div>アプリライセンス 利用人数に応じた従量課金制</div>	インフラ維持費 等
	<div>ラクラク</div> <div>ハードウェア ソフトウェア</div> <div>買い切り</div>	ハードウェアの材料費 等

※ 一部、管理アプリケーション「Hutzper Insight」を伴わないソフトウェアを買い切りで販売する場合もございます。

光学設計からAI構築・運用管理までを包括する 検査自動化プラットフォーム

外観検査自動化AIサービス「メキキバイト」は、製造業の顧客に対し、製造ライン・検査対象に最適化した光学設計（照明・カメラの選定～設置）、不良検出のためのAIモデル構築と排除機構連携、導入後の運用管理までを一気通貫で提供します。

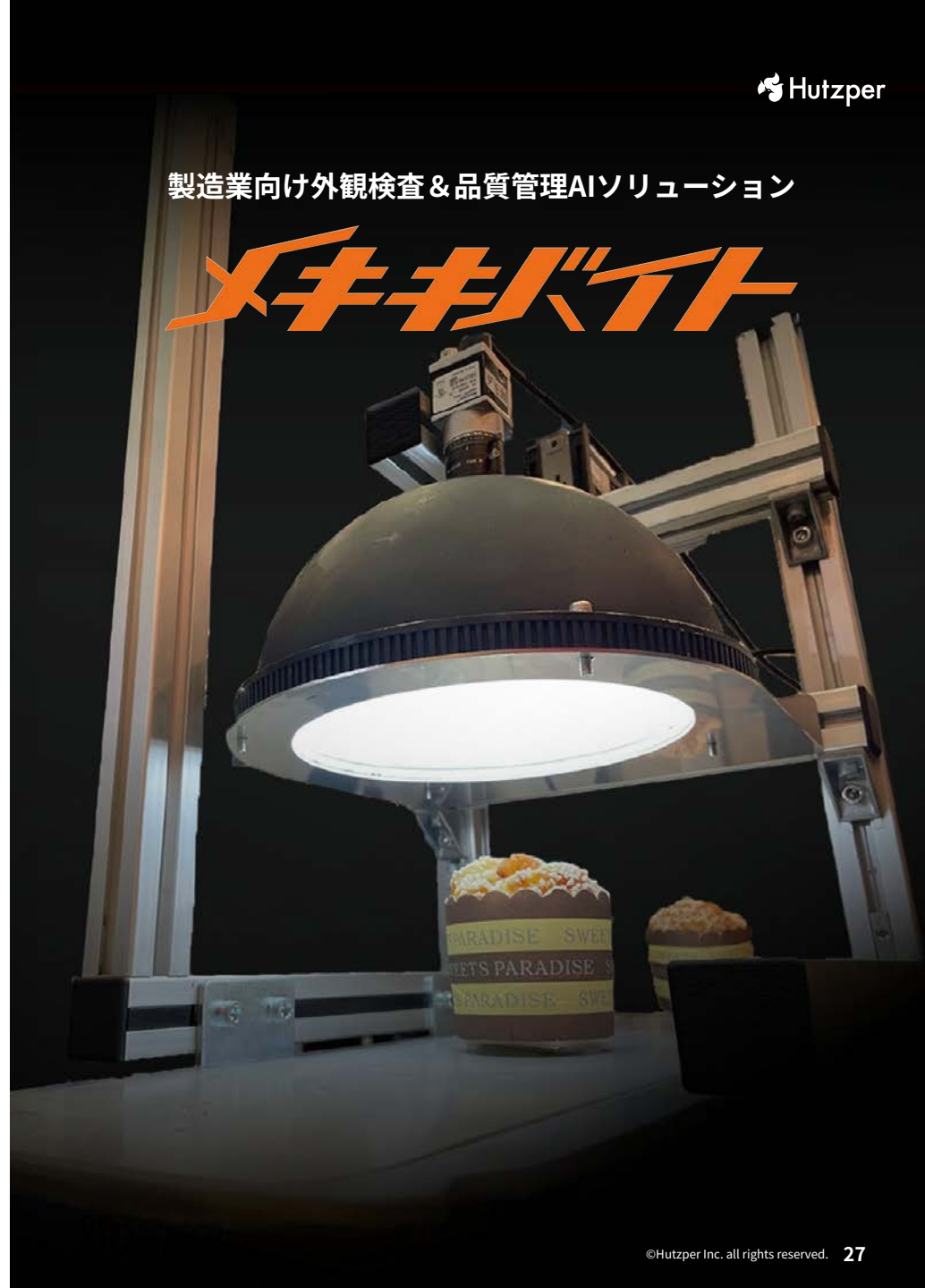
AI判定は現場の産業用PCに搭載したエッジAI※で実行し、高速・安定稼働を担保。運用フェーズではクラウドHutzper Insightを管理アプリとして提供し、顧客自身によるモデル精度向上と品質管理を可能にします。



※ エッジAI：クラウドに依存せず、現場の産業用PC上で推論処理を行う方式。ネットワーク遅延や停止の影響を受けにくく、高速・安定稼働が可能。

製造業向け外観検査 & 品質管理AIソリューション

メキキバイト



導入ステップ毎の強み

“作る・動かす・育てる”の全工程を切れ目なく提供し
導入後も運用定着まで継続伴走

トータルサポート

データ、ノウハウ蓄積と活用

導入相談

ハードウェア
設計

データ収集

AI構築

運用・再学習

要件定義サポート

要件定義を伴走し、目的・評価
指標・ROI仮説を明確化。

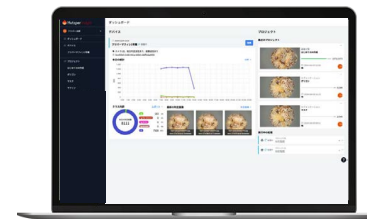
要件定義サポート

「何を・どれだけ・どの条件
で」集めるかを設計し、収集/ア
ノテーションを支援。

品質管理機能搭載

管理アプリケーション

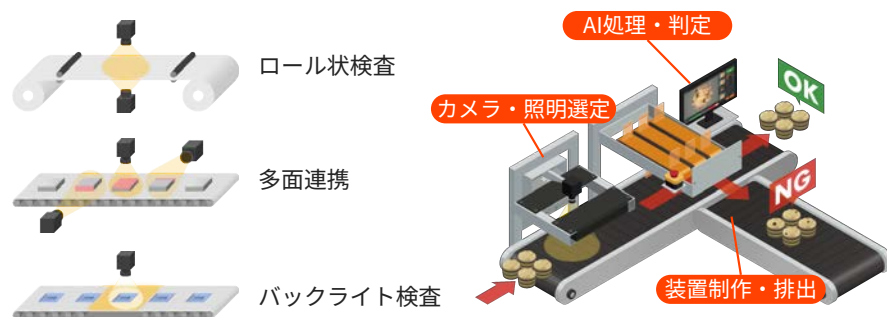
Hutzper Insight



集計・品質管理図 ノーコードAI開発 再学習

同梱の管理アプリケーション
Hutzper Insightで可視化・自
動帳票・JIS管理図。ノーコード
再学習で継続改善。

高度な光学設計／搬送・排除機構を含めた提案



照明／カメラ／治具の光学最適化を実施し、搬送・排除機構まで含めて設計。

最適アルゴリズムの採用／ルールベース組み合わせも可

ソフトウェア 画像処理 + ディープラーニング

画像処理
(ルールベース)AI
(ディープラーニング)

対象に最適なアルゴリズムを採用。ルールベース併用で精度×説明性を両立。

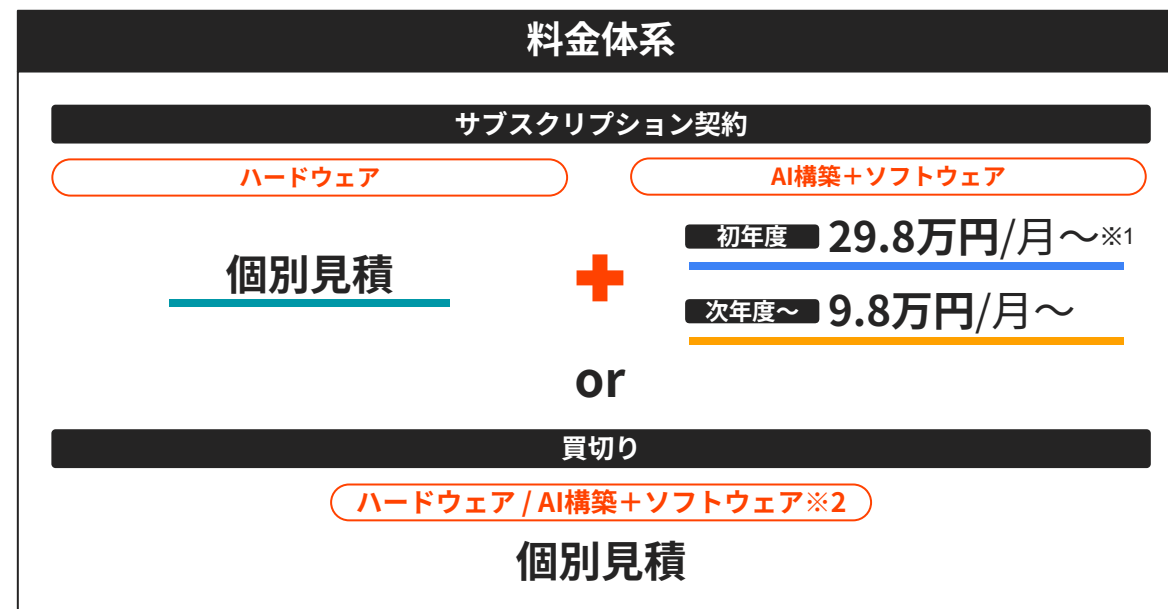
メキキバイトの特徴

顧客の**早期投資回収**を実現

サブスク転換 従来AIの数千万円～1億円規模の初期投資／教育費を、**月額課金**に置換。スモールスタートから拡張可能。

伴走一気通貫 データ収集・アノテーション・AI構築・運用支援までを社内標準プロセス化し、**立ち上げにかかる期間を短縮**。

解約耐性 運用定着まで**継続伴走**し、現場発の改善を回し続ける設計。結果として**乗り換え動機が生じにくい**。



※1 AI構築費20万円、Hutzper Insightのライセンス利用料9.8万円の合計金額（AI構築費は初年度のみ発生）

※2 クラウド管理機能である「Hutzper Insight」を伴わないソフトウェアの販売となります



※1 平均単価＝ハードウェアの平均単価＋初年度の AI構築及びライセンス利用料の平均単価＋ 2年目以降のライセンス利用料

※2 2年目以降のライセンス利用料＝ライセンス利用料の年間平均単価 ÷ (解約率×12)－ライセンス利用料の年間平均単価

従来より“ばらつき”を抑え、ライン速度を落とさない**再現性ある検査**を実現

現場の課題

目視検査の現場

- ・日や検査員によって検品精度にムラが出る
- ・生産スピードを落とさないと判定できない

画像処理センサを導入している現場

- ・多数ある不良、曖昧な基準をルール化しきれない
- ・誤検出が多く、結局人の目で確認している

AIによって解決

現場でブレない、止まらない運用

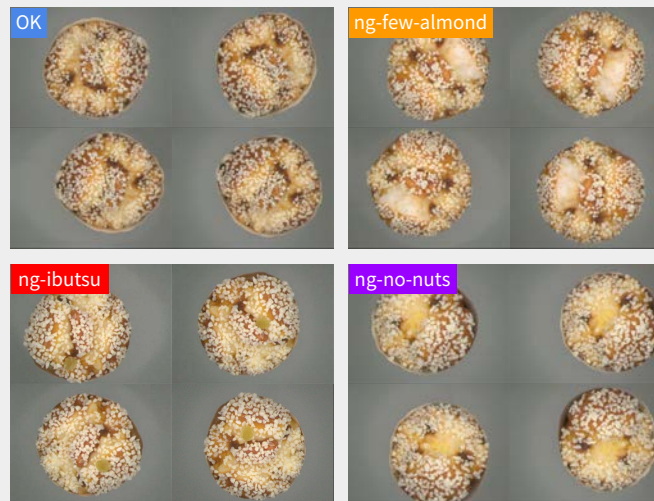
- ・光学最適化+統一基準で日・人差を緩和
- ・エッジ推論でライン追従、再確認回数を低減
- ・AI+ルール併用で“基準の隙間”を補完

運用の見える化と継続改善

- ・クラウド自動蓄積→管理図・自動帳票で変動監視
- ・ノーコード再学習／閾値調整で迅速復帰

※ カップマフィンの検査の例

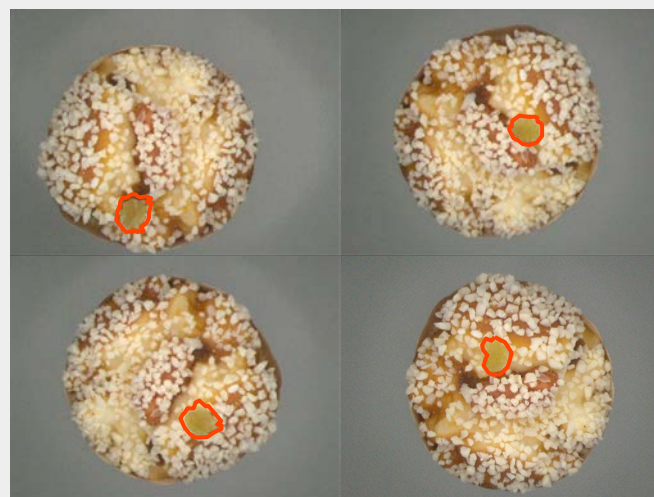
画像分類



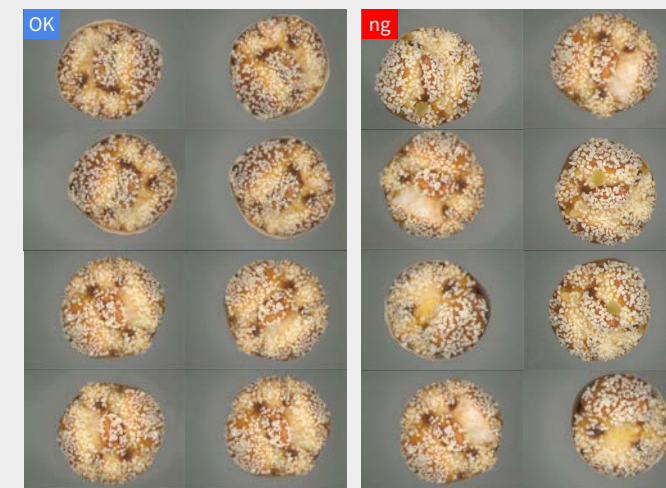
物体検出



セグメンテーション



異常検知



エッジAIとクラウドのハイブリッドによる運用支援

エッジAIで現場を止めずに運用

産業用PC上のエッジAIで外観検査を実行し、ネットワークに依存せず、即時かつ大量処理を実現します。良否の判定基準は現場側で設定・調整でき、ライン条件の変化に合わせた柔軟な運用が可能です。

NGのみを選択同期する特許技術

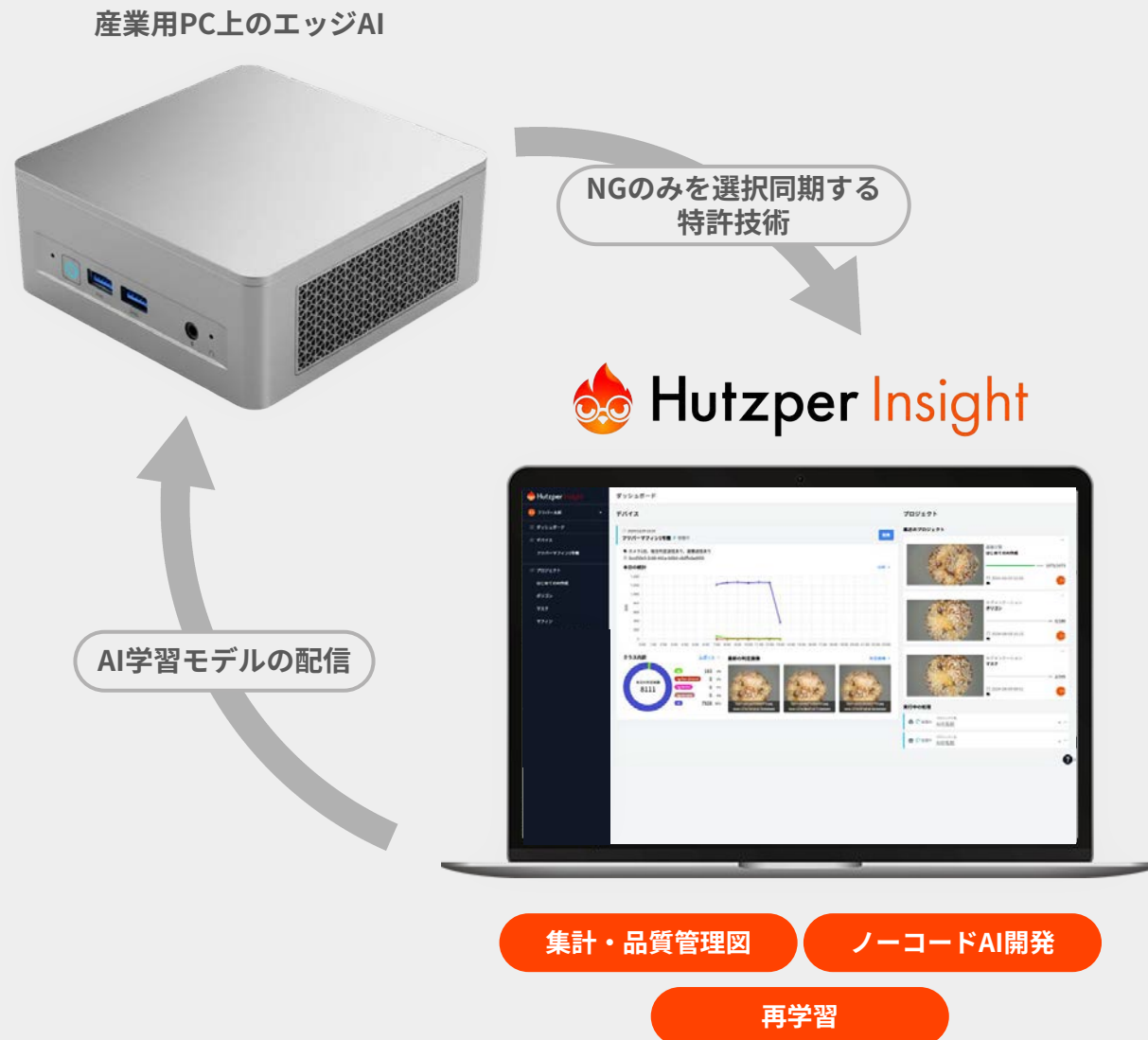
エッジでの検査結果のうち、不良（NG）と判定された画像のみをクラウドへアップロードする特許技術を保有しています。これにより通信・保管負荷と情報リスクを抑えつつ、改善に必要なデータだけを効率的に収集できます。

ノーコードで改善&品質管理

上記技術を用いた外観検査支援アプリケーション「Hutzper Insight」を提供しています。顧客はノーコードで画像の再分類・再学習を行い、AIモデルを自ら改善できます。あわせて、Insight上で品質管理（可視化・帳票・各種管理図）を一元的に実施できます。

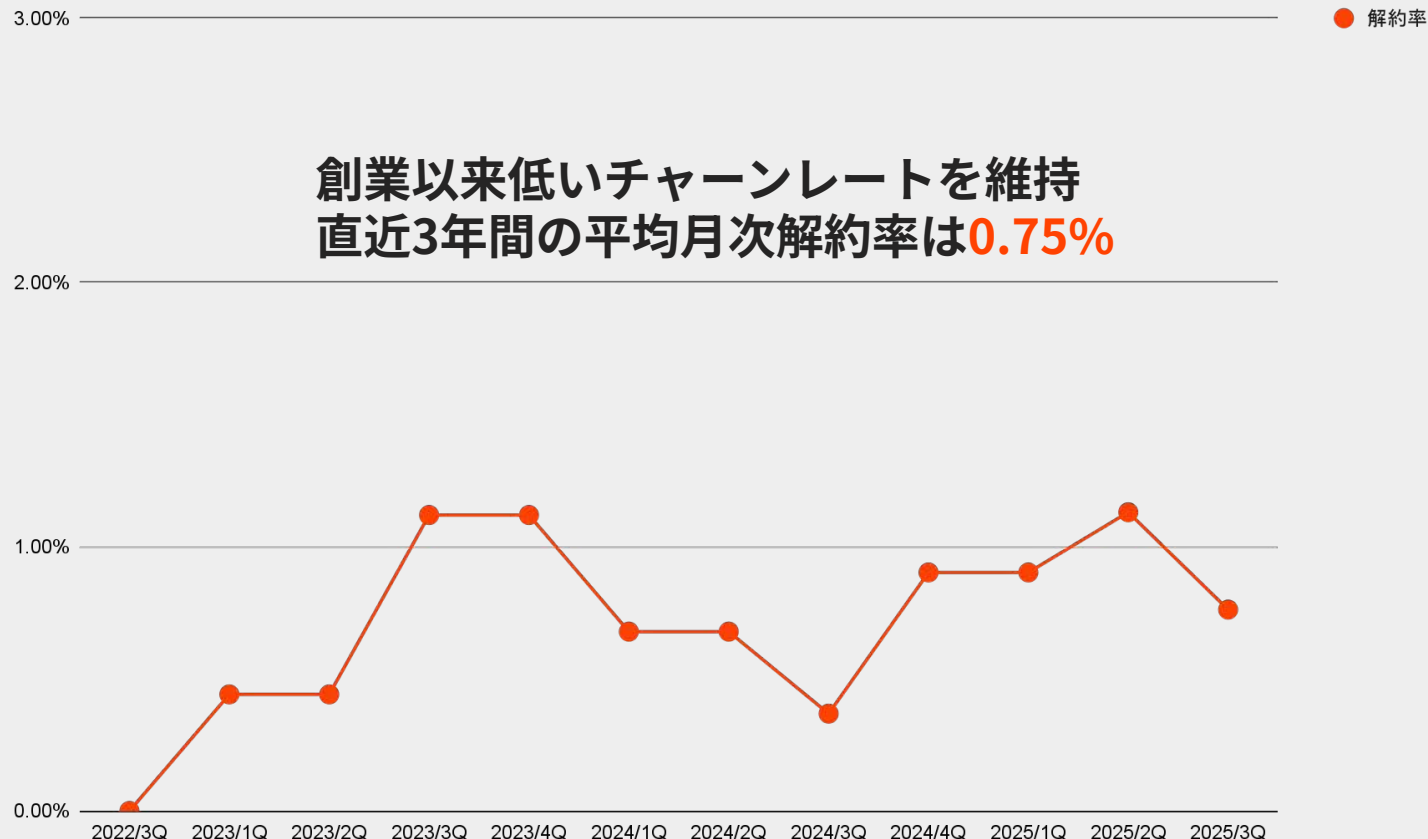
一般的な検査サービスとの違い

一般的な検査システムでは、良否判定データが現場ストレージに滞留しやすく、その後の再学習・品質管理への利活用が進まないケースが多いと当社は認識しています。当社はエッジ×クラウドの分担と選択同期+Insightにより、データを継続的な運用改善と品質管理に直結させる点が特徴です。



メキキバイトのサブスク解約率

(単位：%)



市場定着が進み、解約率は**0.76%**
プロダクトへの信頼が拡大

解約率 ※1

0.76%
(直近12ヶ月の平均)

主な解約ケース

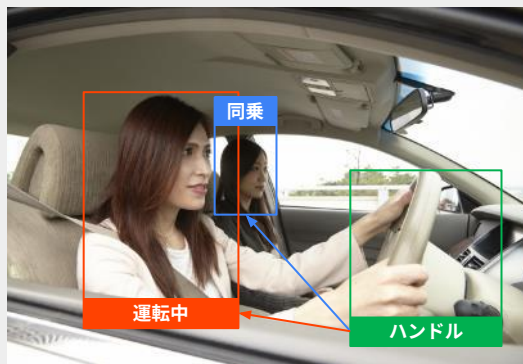
- 対象製品の生産終了
- 投資期間の制約や業績悪化に伴う中止
- 特定品種や項目の追加等に伴う計画変更

...etc

※1 解約率：月中の解約額 ÷ 前月末のライセンス収入 × 100 (%) の対象期間12ヵ月の平均
※2 解約額及びライセンス収入は「Hutzper Insight」の金額を集計しております

メキキバイト以外の画像認識AIサービス

行動検出



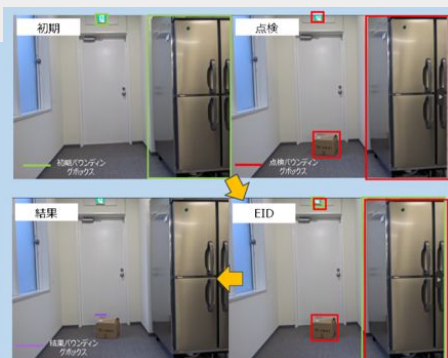
人の動きを“可視化”し、リスクを発見

遮蔽物の多い環境でも稼働可能な独自開発の行動検出アルゴリズムを用い、作業姿勢・動線・手順遵守状況を定量把握。IE活動や技能伝承の高度化に寄与。

事例

- ネットワークカメラによる作業時間分析
- 組み立て作業の手順間違い確認

安全対策



AIで“予防型”の安全管理を実現

侵入・転倒・未装着行動などをリアルタイムに検出するAIを開発。NEDO採択案件でも活用されており、建設・製造現場における導入実績を拡大中。

事例

- ネットワークカメラを利用した建設現場の安全点検
- 危険エリア侵入時の緊急停止
- 避難経路における障害物検知システム

POINT

「メキキバイト」で培った画像認識AIの技術を応用し、現場に設営されたネットワークカメラを活用した、作業員の行動分析や安全対策関連のソリューションを提供。エッジ判定でリアルタイムの現場機器連携が必要なものから、クラウド判定での遠隔監視支援まで幅広く対応。

AIスペシャリストによる**現場特化のDX**

顧客ニーズに応じて、現場データの解析からAI実装までを行う
AI構築支援サービス

現場の**課題解決**へのこだわり

製造現場を中心に多数のAI分析案件を手掛けてきた知見を活かし、
課題発見 → 分析設計 → AIモデル構築 → 業務フローへの実装 → 運用・改善
までを一貫して行い、PoCで終わらない、実際の業務フローに組み込まれたAIを提供。
顧客の現場課題を正しく把握したうえで、コンサルティング、設計、開発、運用、そしてMLOps（AIの継続運用体制）の構築まで支援します。

最新AI技術に精通した専門人材が支える**技術優位性**

当社には、AI・データ解析・ソフトウェア開発の各分野において、最前線の技術を理解し実装できる専門人材が揃っており、組織として最新技術のキャッチアップを体系的に行う体制を整えており、常に変化の早いAI領域に対応できる柔軟性があります。
生成AI領域においても、高度なカスタマイズ力と技術実装力を強みに、LLMやRAGを実務レベルで活用できる仕組みづくりを支援しています。
これらの技術基盤とチームの総合力により、製造・物流・建設・サービスなど多様な業界に向けて、生成AIを含む技術難易度の高い案件にも対応できる組織力と開発力を有しています。

CUSTOM

Hutzper *Ai*

生成AI・RAG
3D・4D
LLM・LVLM

データ分析
アルゴリズム

企画構想力
現場経験・実装

現場を熟知したAIの専門家チームが
課題解決に繋がるDXをご提案します。

カスタムHutzper AI 導入事例

POINT 製造業で培った知見と実績を基に、分析設計からAIモデル構築まで**潜在ニーズに応えるサービス**を提供。

データ分析

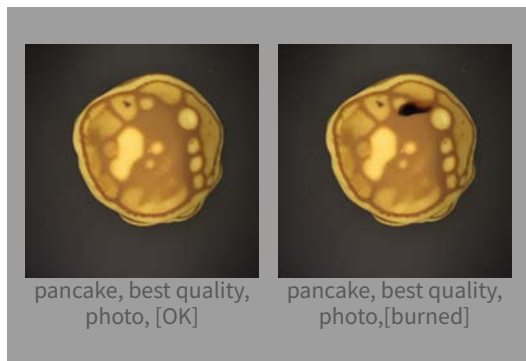
現場データを**未来の意思決定**へ

在庫・需要・設備データなどを統合し、**業務別の予測モデル**を実装。精度だけでなく運用性を重視した分析設計により、現場実装率の高い**意思決定支援AI**を実現。

事例

- センサデータ解析および排水処理手法の最適化
- 車両走行時データおよびドライバー官能評価結果の相関分析
- 航空写真の解析および遊休地の選定

生成AI



生成AIを、ものづくり現場の武器に

RAG・LLM・3D/4D生成モデル生成、不良画像教師データ自動生成など、幅広い領域に対応。生成AIの活用研修や業務改善サポートにも提案可能。

事例

- RAGを活用した研究開発アシストシステム
- 外観検査の不良画像生成AI

予測

未来を見通し、**精度の高い意思決定**へ

現場データをもとに、先を見据えた需要予測や故障予兆を実現。データ活用により突発的なリスクを最小化し、安定したオペレーションを支援します。

事例

- 港湾コンテナターミナル内在庫予測システム
- 輸送機器における交換部品の需要予測
- 車両整備データ実績を元にした車両パーツの故障予測および整備提案最適化

最適化

現場フローを**最短・最適**に

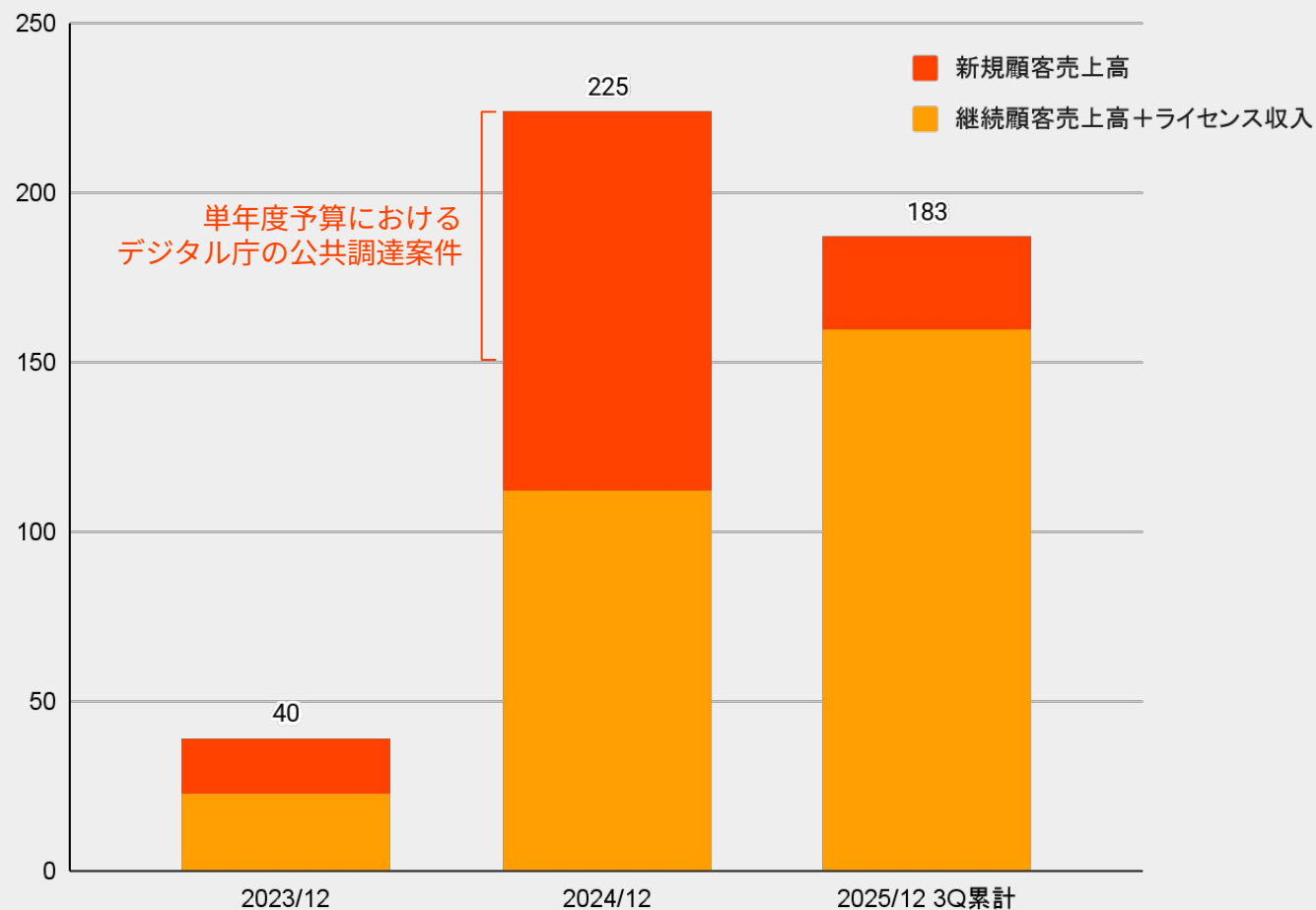
物流や製造工程における動線や配置を最適化。作業効率最大化とコスト削減を実現し、現場の生産性を高めます。属人的な判断に依存せず、持続的な改善を可能にします。

事例

- 物流倉庫における商品配置と歩行距離の最適化
- トレーラーへの建材荷積み最適化システム構築

カスタムHutzper AI のプロジェクト継続状況

(単位：百万円)



POINT

現場起点の提案と成果が評価され、継続プロジェクトが着実に**拡大**。主に大手企業が顧客のエンタープライズ案件を中心に、前期より受注件数が大きく増加中。

ローカルLLM「ラクラグ」(らくらくRAG)

POINT 社内データを外部環境に一切出すことなく専用LLMを構築、あらゆる質問に対して業務に最適化された生成AIと対話が可能

質問入力

このトラブル
前にもあった？

この資料に似たやつ
あったっけ？



ラクラグ



最新GPU搭載
増設も可能



最新AIモデル
常時提供

独自の
情報抽出技術

独自の
クエリ補強

安全・安心
完全ローカル環境
(クラウド等の外部環境への接続なし)

ハードとソフトのワンパッケージ
複雑なセッティング不要で、すぐ使える

回答出力

横断検索
要約/ポイント抽出
整合性チェック
問合せQ&A
ドキュメント自動生成
etc...



パワーポイント、PDF
画像...様々な形式に対応

ビジネス文書

各種企画書
議事録 報告書
見積書 報告書
契約書...

規則・マニュアル

内部マニュアル
就業規則
制度ドキュメント

設計・技術

設計書
設計図面
カタログ
ソースコード

調達・在庫・購買

在庫リスト
購買発注書
トラブル対応履歴

品質改善関連

不具合報告書
改善提案書
品質レポート

研究・調査

研究レポート
過去アンケート

機密データを含む多種多様な社内資料に対応

生産(作業)計画・スキル・勤務状況から 最適な人員配置をAIが提案

計画業務を効率化し、付帯業務を削減

複雑な人員配置やシフト調整をAIが自動化。
属人化していた業務の時間を削減し、現場の管理負担を軽減。

計画平準化で、働きやすい職場を実現

休暇希望や個人条件を踏まえた平等なシフト設計が可能。偏りのない計画で、現場の納得感と定着率の向上を支援。

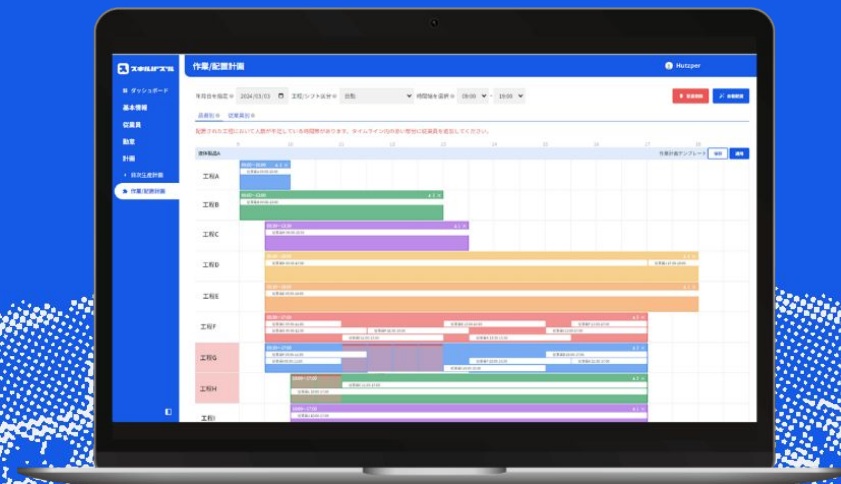
最適な人員配置で生産性を最大化

スキル・稼働状況・経験をもとに、最適な人材を自動で割り当て。ムダのない人員配置で、作業効率と生産性の向上を実現。

力量に基づく評価で組織力を底上げ

個々のスキルや資格が見える化し、配置と評価に反映。力量に応じた育成計画と適材適所を実現。

人員配置最適化AIシステム



6 ユースケース

導入事例

- 1 実績
- 2 会社概要
- 3 事業の概要
- 4 課題解決と市場
- 5 ビジネスモデル
- 6 ユースケース**
- 7 競争力の源泉
- 8 成長戦略
- 9 財務情報
- 10 リスク情報・IPOの目的及び資金使途

導入事例 手作りお菓子の外観検査



「何万枚」もの目視検査を、再現性のある運用へ

概要 老舗洋菓子メーカー・銀座ウエスト様にて、包装後製品の外観検査をAI×光学設計で自動化。検査基準の再現性を高めつつ、検査体制の省力化と継続的な運用改善を実装。

開発背景・課題



メキキバイト導入前の目視検査の様子

何万枚もの検査を人の目に対応していた

人員不足と長時間労働 繁忙期は多くの人員が必要となり、担当者が深夜まで残業し、月間の残業時間も相当な時間数に。

生産性の限界 検査に人員を集中させるため、製造から梱包まで全体の生産効率に影響が発生。

検査品質のばらつき 目視ゆえの見落とし、疲労による精度低下、新人育成とスキル平準化も困難になっていた。

機能概要・導入効果



リーフパイのサイズに合わせたガイドで回転や乱れを防止。広台設置により効率的な作業にも対応



昇降コンベア+スライドシュートでワーク損傷を抑えつつ回収性を高め、他工程製造～包装に効率よく連帯。

メンテナンス性への配慮

- 片側集約設置でメンテ容易に
- 砂糖・破片対策として照明へ
- 定期エアブロー機能を設置
- 清掃性を重視し光学機器は上下稼働可能な形式に

導入後のサポート

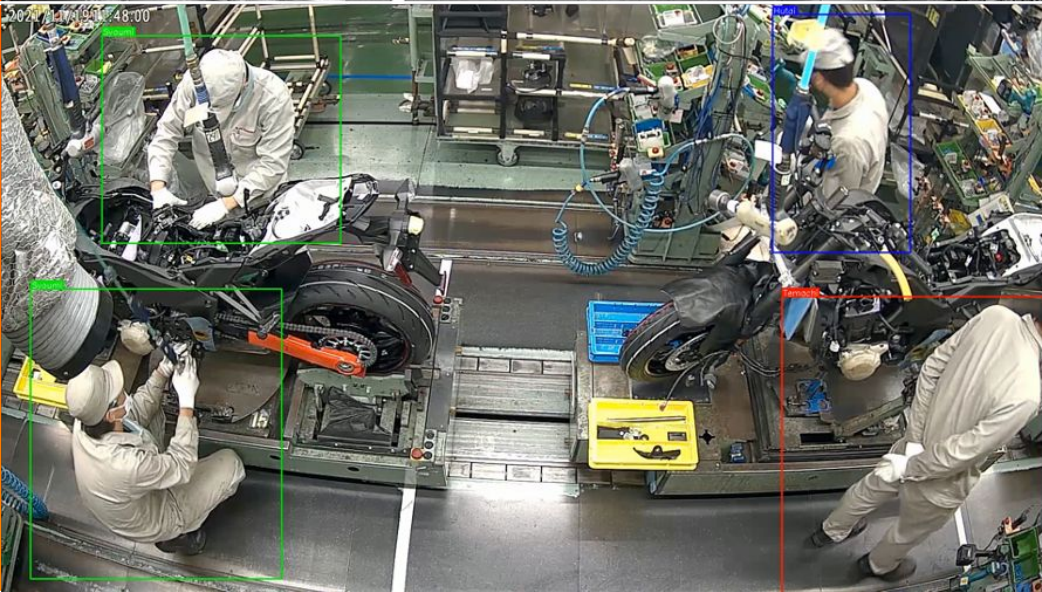
導入初期の想定外にもウエスト様と二人三脚で日次連絡・週次現地対応を重ね、現場合意の品質管理基準まで伴走。その過程で強い信頼関係を築きました。

数字で見る導入後の劇的な変化

配置最適化・生産性向上 検査工程に多くの人員を割いていたが、AI導入により同工程をわずかな人数に削減

残業時間の大幅削減 検査工程：繁忙期の22時頃までの残業が、**ほぼ残業なし**に改善
製造工程：月間残業時間が大幅に削減（**約20%減**）

検査精度の向上 NG画像の選択同期→Hutzper Insight上での学習・品質管理により、**使うほど精度が向上する**運用へ。



Kawasaki
Powering your potential

川崎重工業株式会社とモビリティ組み立てラインにおける行動分類AIの構築

ビジネスアイデアの概要

AIをはじめとしたテクノロジーの積極的な導入を目指す川崎重工株式会社と弊社は、関連会社であるカワサキモータース株式会社の組み立てラインに設置されたネットワークカメラの動画から、行動(正味/付帯/手待ち作業)进行分类するAIモデルを構築。

骨格検出を用いない分析手法を用いることにより、ツールなどの障害物に影響を受けにくい形で行動进行分类。動的に各行動の時間を測定可能なシステムを構築することで、さらなる生産性の向上を目指す。

導入事例 研究開発 AIエージェント



ロートは、ハートだ。




食品製造業

物流

製造業

ゼネコン

一次産業

医薬品



リアラボAI

ロート製薬とフツパーの共同開発による
研究開発AI『リアラボAI』

概要 リアラボAIは、当社技術顧問・金出武雄教授（カーネギーメロン大学）の監修のもと開発した統合型AIエージェントです。



CEATEC AWARD 2025 ネクストジェネレーション部門を受賞

開発背景・課題

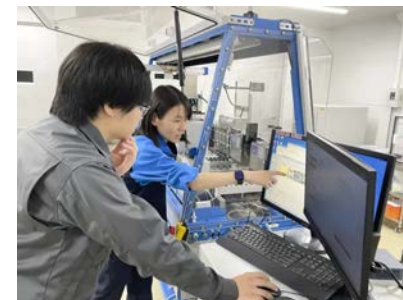
- 標的探索段階でのデータ探索・解析設計、処方設計→実験実行
- 膨大なデータベースから目的に適したデータを探し出す作業
- 解析のための前処理やパラメータ調整
- 処方設計のための情報収集
- 実験手順の作成や実験ロボットへのプログラム実装

これらの非創造的な作業に多大な時間が費やされ、かつプロセスが属人化しているため、解析の再現性確保や専門ツールの利用が一部の研究者に限定されていた。

機能概要・導入効果



自然言語対話でデータ探索→解析→処方設計→実験ロボット制御までを連続実行し、ドライ×ウェットを跨ぐ統合型AIエージェントを開発することにより、**属人作業の標準化と再現性向上**を実現。



開発の様子

今後の展望

CEATEC AWARD 2025 ネクストジェネレーション部門の受賞を機に、医薬・化粧品・食品などヘルスケア/バイオ領域への社会実装を加速し、共創領域の拡張（化学・材料等）と、標準化プロトコル／運用指標の確立を目指します。また、展示・共同実証を通じた導入モデルの磨き込みと横展開を想定しています。

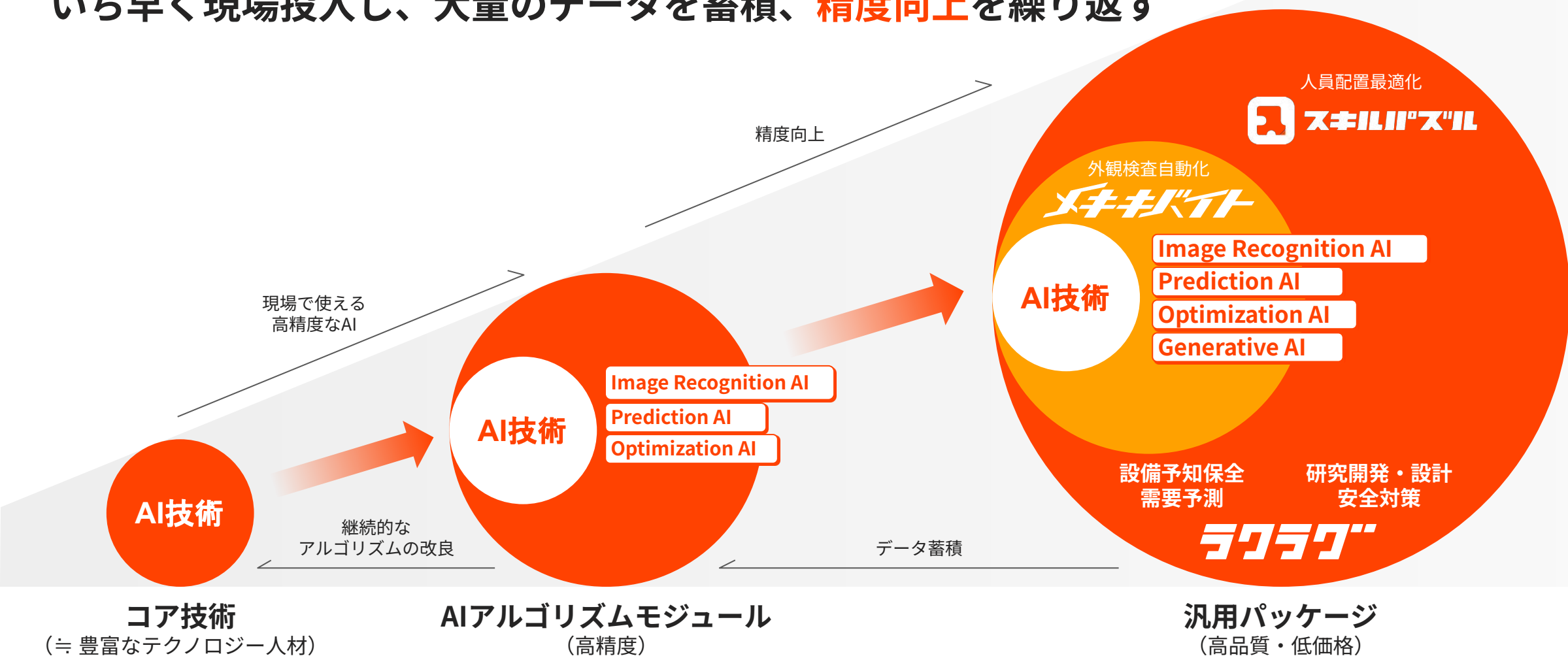
7 競争力の源泉

Hutzperの強み

- 1 実績
- 2 会社概要
- 3 事業の概要
- 4 課題解決と市場
- 5 ビジネスモデル
- 6 ユースケース
- 7 競争力の源泉**
- 8 成長戦略
- 9 財務情報
- 10 リスク情報・IPOの目的及び資金使途

競争力の源泉

コアテクノロジーは、高品質なAI
いち早く現場投入し、大量のデータを蓄積、**精度向上**を繰り返す



AI現場実装力

現場に根ざしたAI導入力

必要なハード～ソフトまで、製造現場の課題をワンストップで解決できるAIソリューションを提供
現場のノウハウ、スケール可能なプロダクト、膨大なデータに裏打ちされたAI現場実装力が強み

AI学習用のデータ収集に
関する仕組みで特許取得

コアテクノロジー

フツパーの強み

現場で使える高価値なAI

メ
キ
キ
バ
イ
ト

可視化

センサ・ハードウェア



光学設計
搬送・排除

デジタル化

ソフトウェア・システム



現場アプリ
ルールベース

IoT化

クラウド・データベース



Webアプリ
通信・API

AI化

アルゴリズム・自律制御



AIモデル
GUI・再学習



ノウハウ

製造現場にAI技術を導入するためのノウハウ
マニュアルにない≒ネット上にない情報と経験の保有



プロダクト

AI技術を道具として活用してもらうためのプロダクト
特定用途に特化しユーザーへの提供価値を集約・最大化



データ

最大限にAI技術の価値を高めるフィジカルなデータ
インターネットの外の領域にある膨大なデータを蓄積

現場の課題解決に必要な技術を網羅

エンジニアが正社員全体の6割以上を占め、高い専門性を有したエンジニアが各領域において在籍
現場の課題解決に必要な技術を網羅し、総合的なサービス提供ができることが当社独自の強み

6割以上がエンジニア

組織名		役割	保有技術	人員数（人）
AIエンジニアリング部	PM（プロジェクトマネージャー）	顧客の技術面の課題抽出及びプロジェクト全体のマネジメントを行う。	製造工程、品質管理、生産管理に関する知見	9
	ソフトウェアチーム	製造現場で使用するソフトウェアの開発	プログラミング	9
	ハードウェアチーム	コンベアや排除機構等の製造ラインの設計・組立・設置	ハードウェア設計 電気回路構築	6
	AIチーム	顧客の製造現場、製造物に対応した光学設計からAI構築及び学習	光学設計 AI構築	6
プロダクト開発部		Hutzper Insightならびにスキルパズルの開発、ウェブサービスの個別開発。	Webサービス開発 デザイン	6
データサイエンス部		カスタムHutzperAIの提供及びAI技術の調査・研究開発。	AIリサーチ データサイエンス AIを活用したコンサルティング	6

※ 2025年10月31日時点の人員構成を記載しております。

競争優位性

製造業のようなリアルな現場をもつ産業に対して”高度なAIソリューションを提供”



POINT

既存のAIベンダーで当社のように特定業界に特化し、プロダクトを有して課題解決に取り組んでいる会社は少数。

特に外観検査領域においては、導入して終わりのAIセンサ及びAI機能を持つ装置を提供している会社は存在するが、当社のようにクラウド経由で継続的な再学習を支援し、大量の現場データを保有する会社はないと思われる。

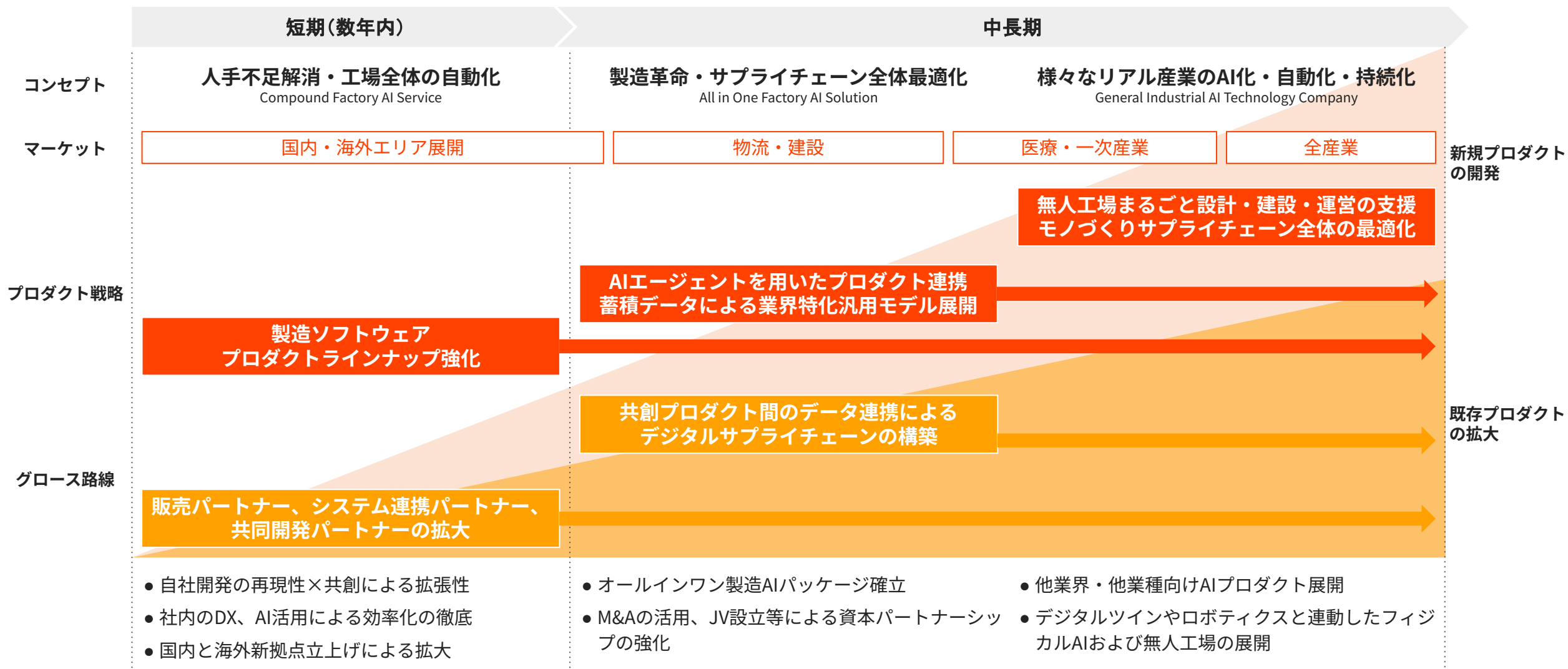
8 成長戦略

今後の戦略

- 1 実績
- 2 会社概要
- 3 事業の概要
- 4 課題解決と市場
- 5 ビジネスモデル
- 6 ユースケース
- 7 競争力の源泉
- 8 成長戦略**
- 9 財務情報
- 10 リスク情報・IPOの目的及び資金使途

成長戦略

短期的にはプロダクトの強化・開発、複数拠点展開やパートナーを活用した販路拡大を行っていく。その後は、AIエージェントによるプロダクト連携や蓄積されたデータを活用したAIモデル開発等によりサプライチェーン全体の最適化を進めていく計画。



成長戦略の二軸展開

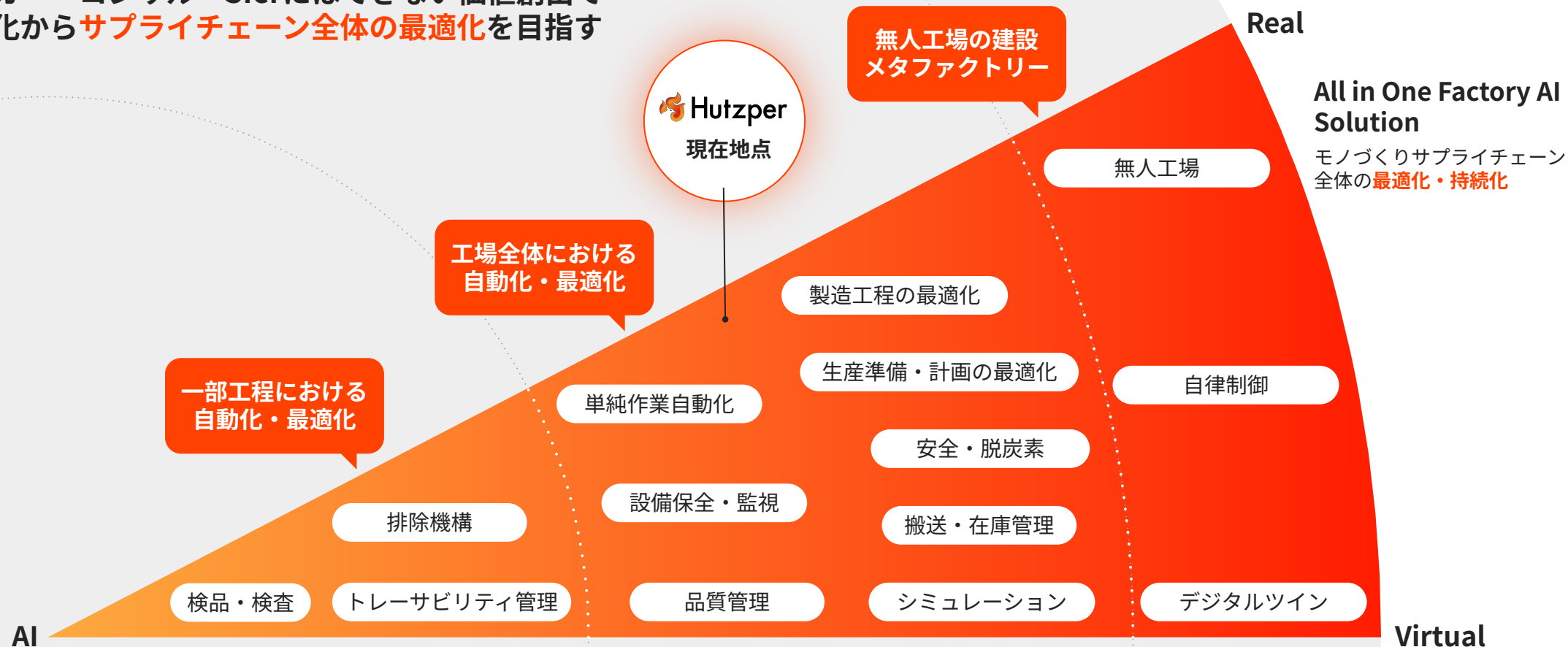
プロダクト展開は**製造領域に特化**、AI技術提供は**業種問わずサポート**

製造現場で培ったノウハウや知見、技術・技能だけでなく、モノづくりの誇りや考え方、概念を継承し、他業界の改善に活かすデータとAIの仕組みで次世代に翻訳し、**モノづくりの広義化**を目指す。



製造領域ロードマップ

ハード＋ソフトでリアルな課題解決にこだわり
単体のメーカー・コンサル・SIerにはできない価値創出で
部分の自動化から**サプライチェーン全体の最適化**を目指す



オールインワン製造AIプラットフォーム

サプライチェーン全体の最適化を実現できるよう、既存領域だけでなく、製造分野においてさらなる事業展開を進めていく。

個別AIソリューション

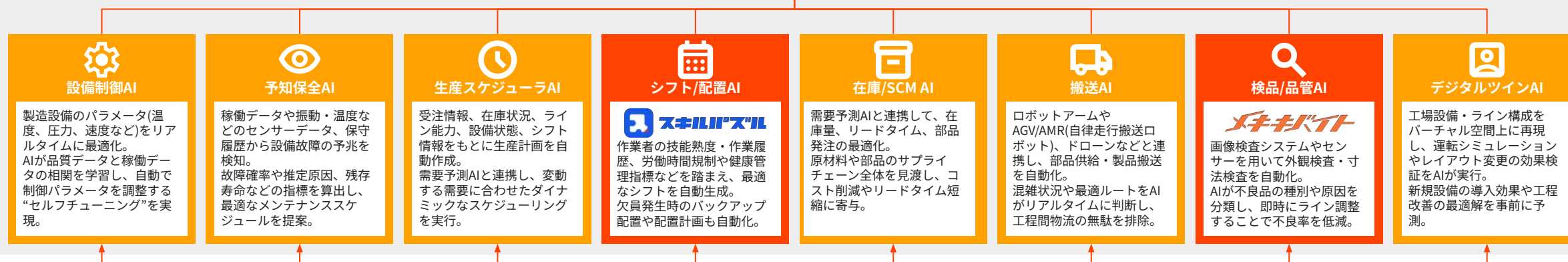
AIエージェントによって適宜活用され、分析結果、実行状況をAIエージェントにフィードバック



AIエージェント

現場作業や管理者が自然言語でシステムに問い合わせ・指示をおこない、AIが対話形式で提案・応答する。
AIエージェントが各個別AIソリューションを横断的に司り、設定変更や問い合わせに対して最適解を自動的に実行・回答。

- 既に提供済みの領域
- 今後サービス提供を検討する領域



データ基盤

工場設備・IoTデバイス・管理システムなどからデータを取得

データレイク / DWH

工場内のリアルタイムデータや管理データを統合・蓄積

稼働/状態監視

(リアルタイムデータ)

管理データ

(生産計画/在庫/点検記録/勤怠等)

検査/監視

(画像/動画)



PLC



IoT



MES/
SCADA



MRP/ERP



労務/保守管理システム等



カメラ



ドローン/
AGV

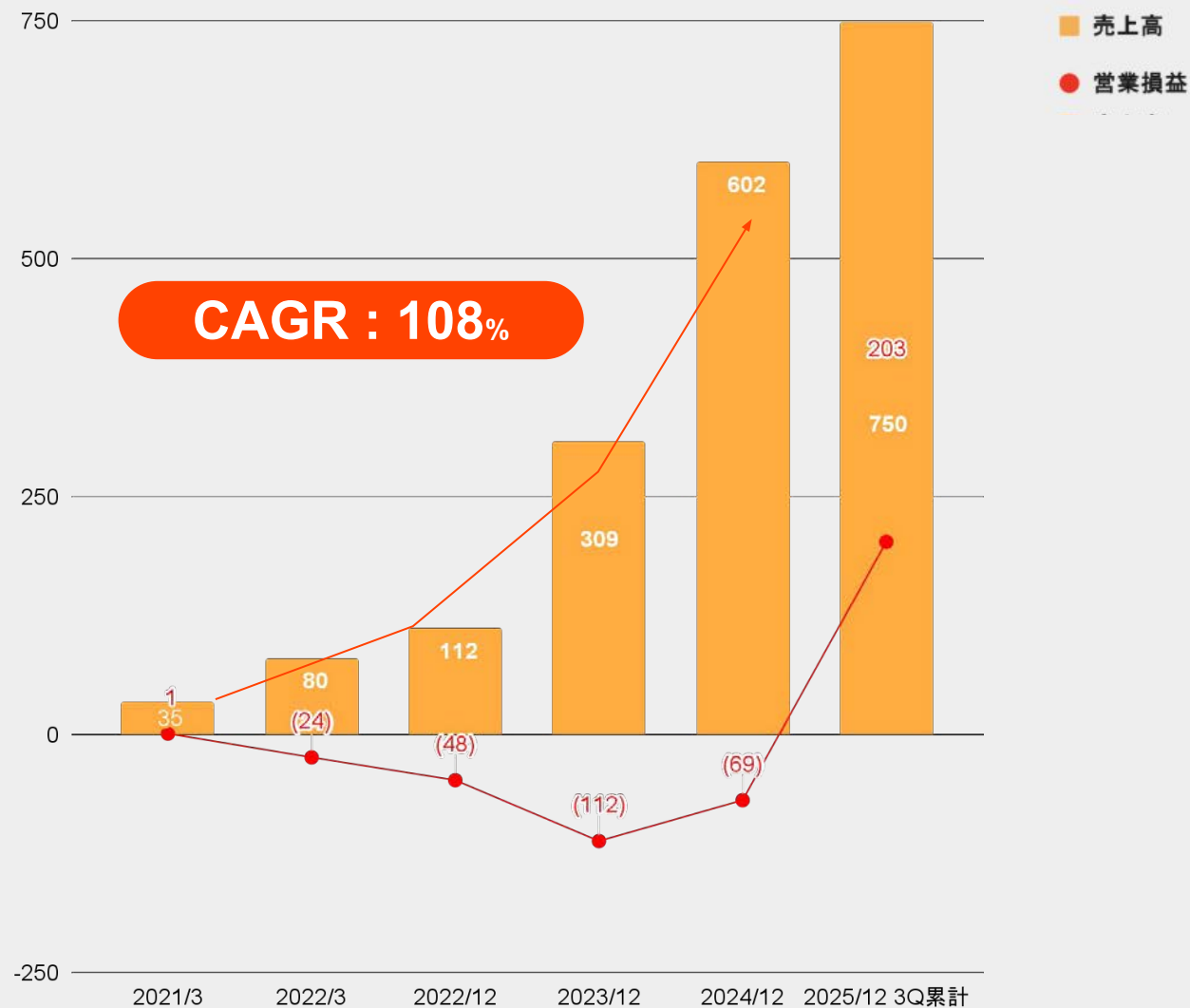
9 財務情報

業績推移・コスト構造・資金使途

- 1 実績
- 2 会社概要
- 3 事業の概要
- 4 課題解決と市場
- 5 ビジネスモデル
- 6 ユースケース
- 7 競争力の源泉
- 8 成長戦略
- 9 財務情報**
- 10 リスク情報・IPOの目的及び資金使途

業績の推移

(単位：百万円)



POINT

創業期より売上高は**100%成長ペース**を維持、営業損益は既に黒字化。利益面については過去最大のファイナンスを実施した翌年の2023年12月期をピークに赤字幅は減少傾向になり、2025年以降は利益創出フェーズへ。

※1 2022/12期は決算期変更につき、9ヶ月間の実績

※2 2021/3期から2022/12期については、会社計算規則に規定に基づき算出した各数値を記載しておりますが、当該数値については、金融商品取引法の規定に準ずる監査を受けておりません。

業績内訳

POINT 2025年12月期はエンタープライズ案件の増加に伴い、FY25/12期 3Qの営業利益率は28%に達する。粗利率は年々増加傾向ではあるが、2024年12月期は公共調達案件の影響により数値が悪化。今後は改善の見込み。

【千円】	2023年12月 実績	2024年12月 実績	2025年12月 3Q累計	2025年12月 通期予算
売上高	309,919	602,796	750,339	1,269,494
売上原価	138,271	294,474	259,757	455,231
売上総利益	171,647	308,322	490,581	814,262
売上高総利益率	55%	51%	65%	64%
人件費	130,614	177,777	162,083	243,591
広告費	27,658	33,006	10,402	17,016
研究開発費	47,799	62,337	28,083	46,888
減価償却費	3,163	846	1,701	4,265
その他の費用	75,057	103,428	84,433	143,511
営業利益	-112,645	-69,074	203,876	358,989
営業利益率	—	—	27%	28%
経常利益	-111,530	-65,119	212,151	346,738
税引前当期純利益	-133,918	-65,119	212,151	346,738
当期純利益	-134,628	-23,042	170,407	263,313

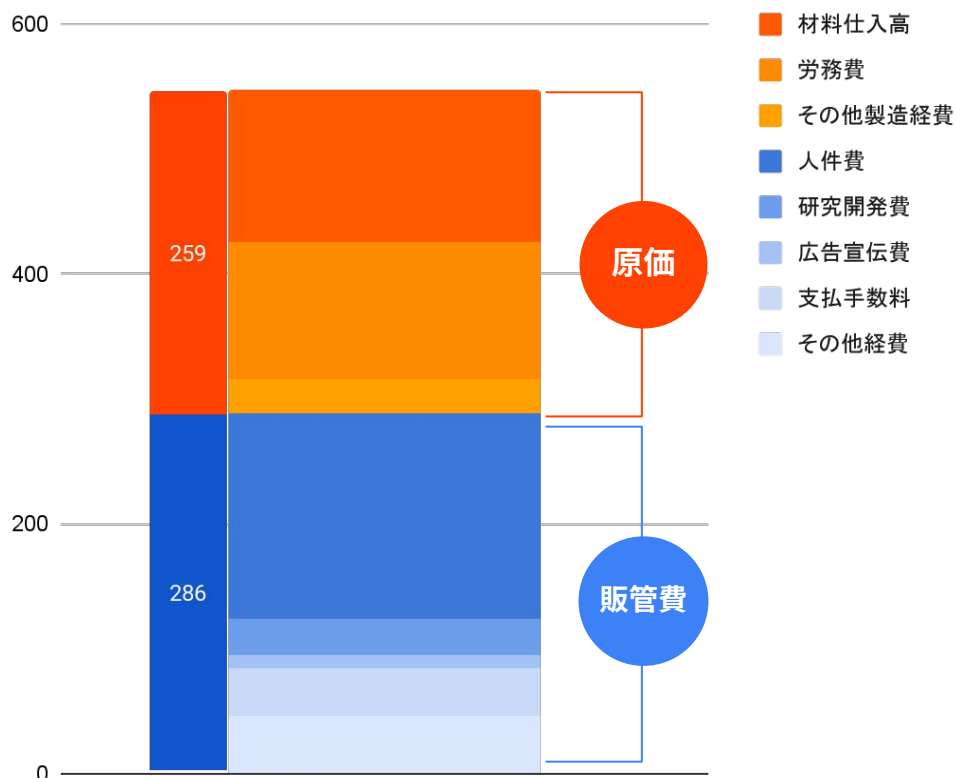
販売費および一般管理費の推移

POINT

売上成長に連動して販管費も増加。主に人員拡充・研究開発投資が費用構成を牽引し、直近のR&D費用はプロダクトの安定稼働に伴うソフトウェアの資産計上で減少。また販管費比率は下落傾向で、効率的な事業拡大が実現できている。

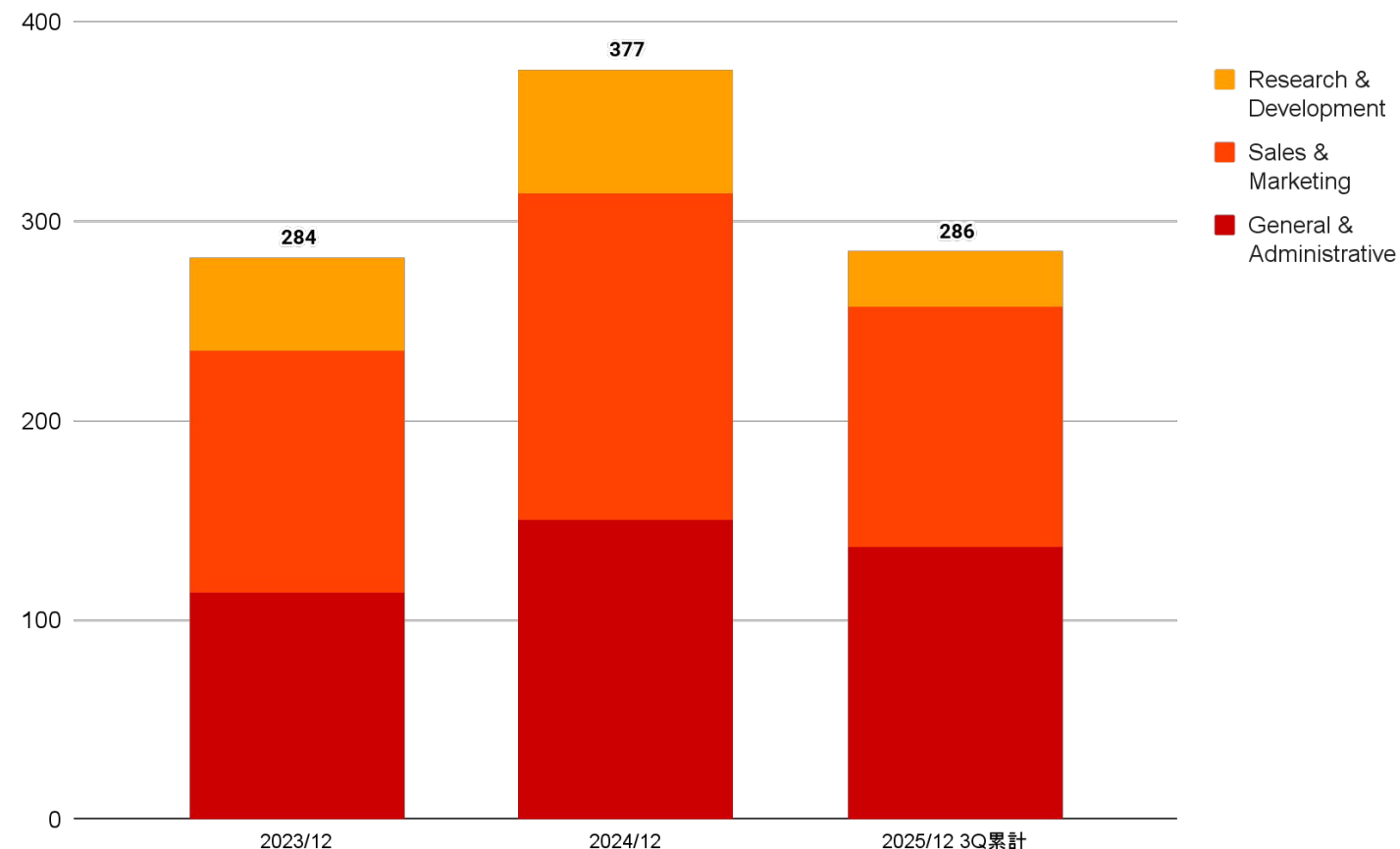
コスト内訳 (FY2025年Q3)

(単位：百万円)



販管費内訳

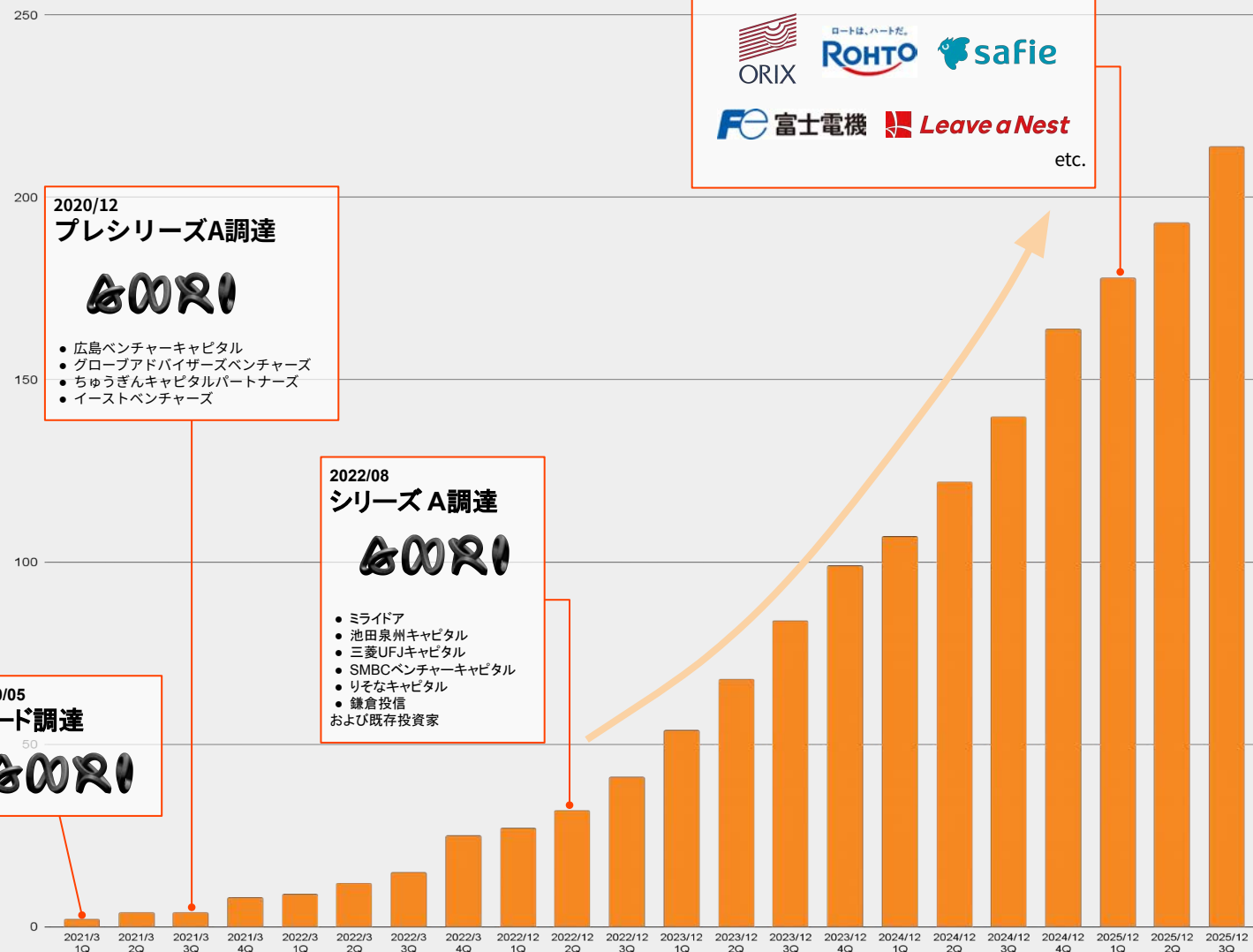
(単位：百万円)



資金調達と取引社数の推移

累計取引社数および主な提携実績

(単位：社)



POINT

創業期：

ANRIをリード投資家として複数の金融系VCが参画。金融機関からの紹介などを活用し、SMB顧客を中心に案件実績を増やす。

2023年～：

積み重ねた技術力を活かしたエンタープライズ案件が増加。累計取引社数は150社を突破。

2025年～：

2025年3月の資本業務提携で半導体や医薬品等の他業界への足掛かりを作り、累計取引社数は200社を突破。幅広い顧客へ事業展開を狙う。

10 リスク情報・IPOの目的 及び資金使途

リスク対応策・資金使途

- 1 実績
- 2 会社概要
- 3 事業の概要
- 4 課題解決と市場
- 5 ビジネスモデル
- 6 ユースケース
- 7 競争力の源泉
- 8 成長戦略
- 9 財務情報
- 10 リスク情報・IPOの目的及び資金使途**

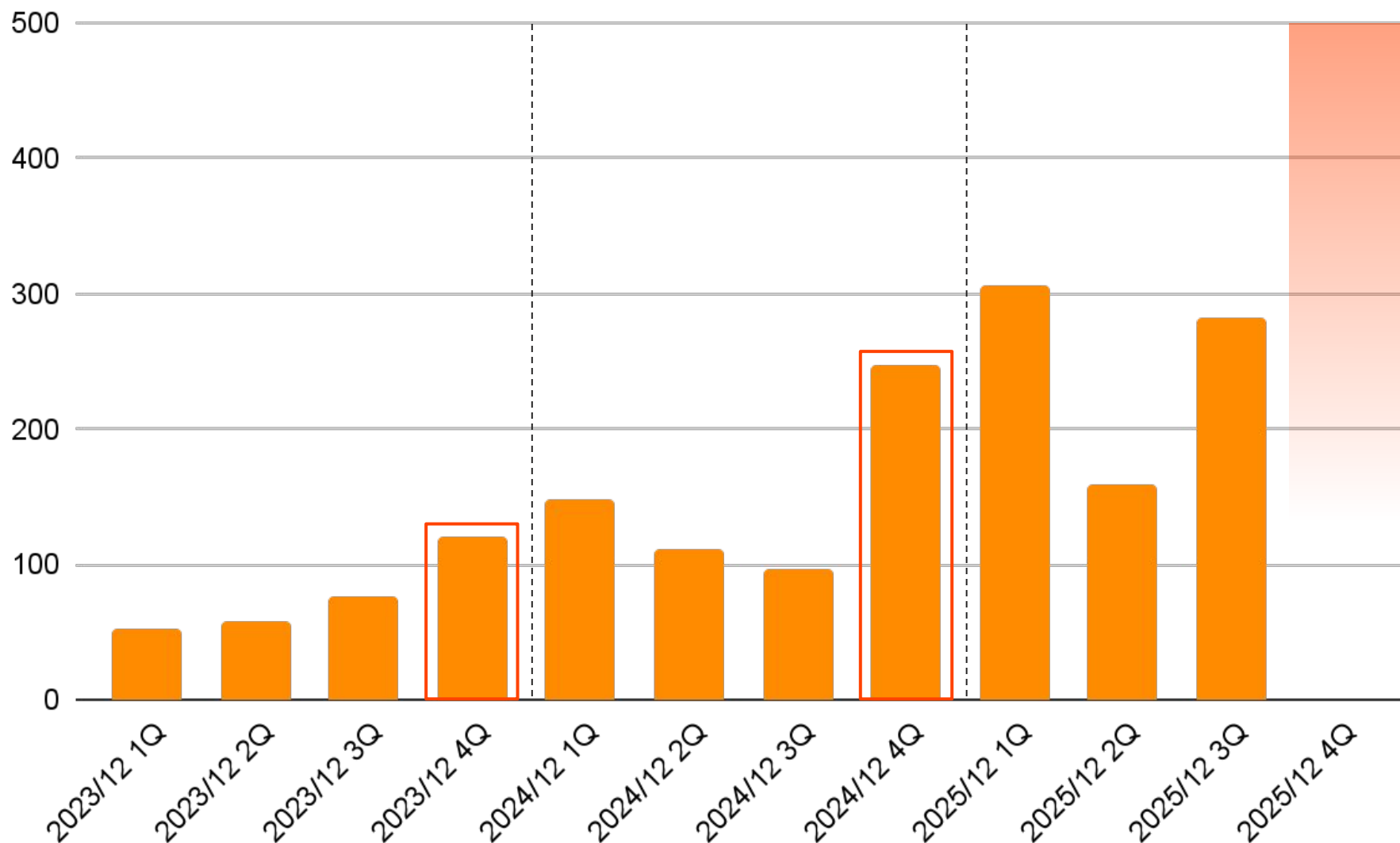
リスク情報

項目	主要なリスク	可能性	時期	影響度	リスク対応策
戦略に関するリスク	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な人材の確保及び育成について IT業界の人材獲得競争が激しく、必要な人材を十分に確保できないリスク	高	常時	低	採用専任者を配置すると共に人事評価制度および教育制度を充実させ、安定した人材採用と人材流出防止の環境を整備する。
経営環境に関するリスク	<ul style="list-style-type: none"> ・技術革新について AIは技術革新のスピードが急速に進んでおり、予想以上の技術革新や非連続的な代替技術の出現により、当社が十分な技術的優位性を維持できなくなるリスク	中	常時	高	多様な人材を確保するとともに、AI技術のモニタリングを強化し、開発体制の構築に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ・競合について 当社の競争優位性を上回る競合他社の算入により、当社の市場シェアを奪われるリスク	中	常時	高	早期の市場シェアの獲得。技術動向や環境変化を把握する体制作りや、優秀な人材の確保及び教育等により、顧客ニーズの変化に迅速に対応できるよう努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ・法的規制等について AIに関連する法規制の制定により、事業上の制約を受けるリスク	低	常時	高	継続的な法令および関連規制のモニタリングをおこない、早期の対応を図る。
情報システムに関するリスク	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システムについて 顧客の情報流出による当社の信頼性が低下するリスク	高	常時	高	情報管理に関する規程、マニュアルの整備および継続的な情報セキュリティマネジメント活動による情報管理を徹底する。

売上高の偏重に関して

POINT 会社が成長フェーズにあり期末にかけて売上が増加傾向、そのため4Qに売上高が偏る傾向に。

(単位：百万円)



IPOの目的

社会的信頼・認知度向上による事業強化

多様な業界へのサービス導入や取引拡大等

優秀な人材の確保

信用力や知名度向上により、優秀な人材の確保及び従業員の士気向上

資金調達手段の多様化

多様な資金調達手段を確保することで、成長資金を柔軟に調達

資金使途

(単位：百万円)

項目	主な資金使途	予定金額	2026年 12月期	2027年12 月期
人件費および 採用費	事業規模拡大のため セールス＆マーケ ティング、エンジニ ア人材の拡充	950	400	550
研究開発費	新規サービス開発や 自社独自のAIモデル 開発のための研究開 発費	116	41	75
広告宣伝費	顧客獲得や当社およ び当社サービスの認 知度向上のための拡 販施策の実施	27	27	—

Appendix

導入事例 港湾コンテナターミナル内在庫予測システム

Forbes
Xtrepreneur
AWARD
2024



Forbes
Xtrepreneur
AWARD
2024

「Forbes JAPAN Xtrepreneur AWARD 2024」
ノミネートプロジェクト

Xtrepreneur

食品製造業

物流

製造業

ゼネコン

一次産業

医薬品

Hutzper

CUSTOM
Hutzper Ai

AIを利用した港湾コンテナターミナル内 在庫予測システムの開発

ビジネスアイデアの概要

山九株式会社・株式会社インフォセンスとの三社共同開発プロジェクト

東京港にて、将来1ヶ月間のAIを用いたコンテナ在庫予測を実施。
過去実績データや航路情報、経済指標を活用して予測することで高精度を実現。

本システムを他港の各港湾利用会社にも展開することで、共通の予測結果を元に
ターミナルオペレーションを効率化し、待機時間やバンプール退避時間の短縮を
図り、全体最適を目指す。

導入事例 物流倉庫でのスキルパズル活用



属人化していた人員配置業務をスキルパズルで標準化

開発背景・課題

- シフト取り纏め作業＋配置計画作業に時間がかかる (6-7時間/週間+α)
- 毎日のように突発休暇者がいるのでその都度組み換え作業が発生し手間がかかる
- スキルや人的相性を把握している方が1名しかおらず、配置計画作業が属人化している

Before



管理者は紙ベースでシフト希望を集約。
作業員のスキルや相性を考慮し、1週間単位で人員配置を計画。
完成した計画は、紙で日別に掲示し現場へ通知していた。

After



- シフト取りまとめ作業＋配置計画作業の省力 (**1時間/週間**)
- スキルマップの形式化、配置計画作業の標準化
- 突発休発生時の組み換え作業の迅速化

導入事例 不良ゼロのスマートファクトリー実現を目指した取り組み



TOSHIBA **SunMax**

クラウド型PLCと外観検査AIを活用した歩留まり改善システムの実証実験

東芝インフラシステムズ株式会社「Meister Controller Cloud™ PLCパッケージ typeN1」と製造業向け外観検査&品質管理AI「メキキバイト」を活用したスマートファクトリーの実現

連携設備：サン・プラント工業株式会社「焼成機/SM-TGC450-2000」

ビジネスアイデアの概要

複数工場/複数機器から収集される大量のデータを利用して、各工場/工程における最適製造条件をAI活用で算出し、クラウド型PLCで一括制御をおこなうことで、工程の省人化・歩留まり改善を図るシステムを構築する。

食品加工機械メーカーのサン・プラント工業株式会社ご協力のもと、上記構想の第一段階として、ハンバーグの焼き具合(生焼け/正常/焦げ)を判定し、ローカルで自動調整するシステム構築の実証実験を実施。

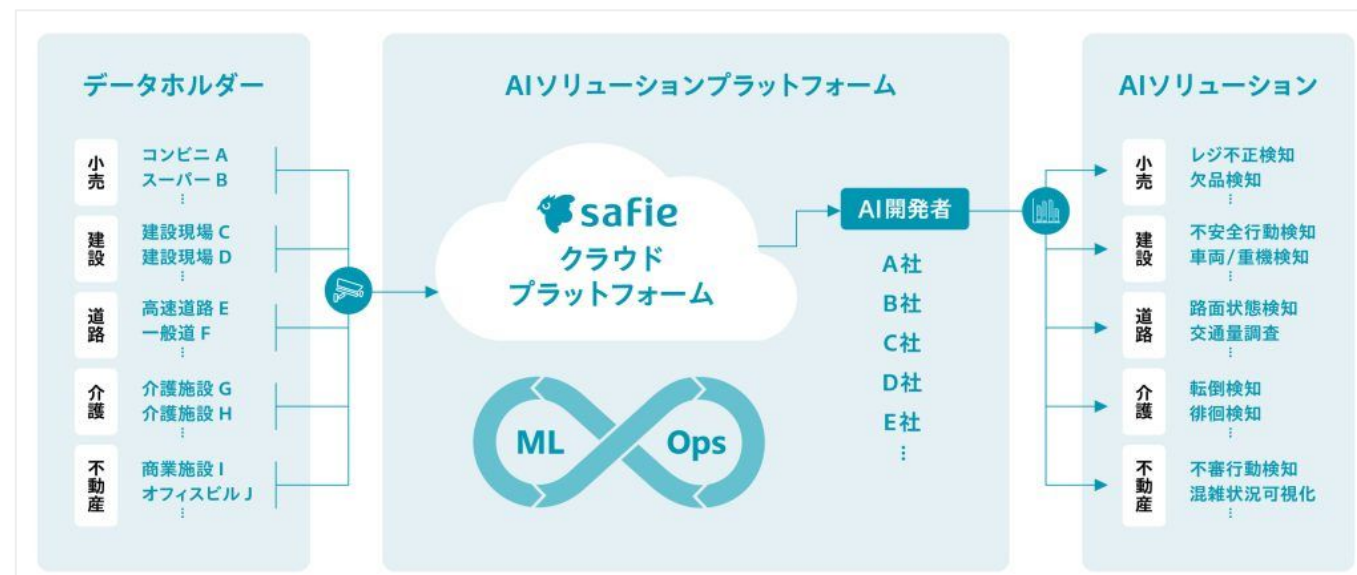
外観検査AIで焼き具合判定・不良品排除→クラウドサーバー上で不良品発生原因をAI分析し、最適条件の算出→オーブンの温度・スピードをクラウド型PLCによりコントロール。

今後は工程全体の機器、複数工場にまたがるデータを収集・制御し、そもそも不良を作らない工場、省人化を実現したスマートファクトリーの実現で、食品ロスなど事業系廃棄物の削減を目指す。

映像 × AI で「現場の危険」を見える化する

概要

クラウド録画サービス国内シェア No.1・セーフイー株式会社との事業連携
建設現場における不安全行動検出 AI の共同開発（NEDO公募採択）



導入事例 3Dアニマルツイン技術を用いた 牛の体重／採食量推定システム



Marubeni × **Hutzper**

食品製造業

物流

製造業

ゼネコン

一次産業

医薬品

一次産業にAIの眼と脳を

概要

- 3D画像解析技術を活用し、カメラ1台から牛の体重および採食量を非接触で推定
- 飼育現場の労働負荷削減・家畜データの可視化を実現

撮影

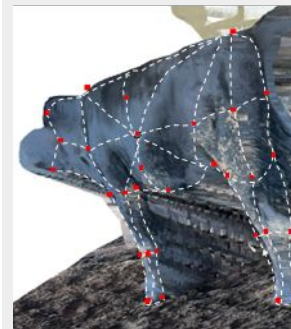
RGBDカメラで撮影



非接触

各部位の 表面長を計測

表面上での距離を計測



体重/採食量算出

- 140を超える空間特徴量の取得
- 月齢や種別、性別といったメタデータをもとに体重を算出
- 完全ローカルにて高速に判定



データ蓄積

- BeecoProgramプラットフォーム※での管理・運用
- 現場の情報をタイムリーに飼料会社、金融機関等に共有



項目	内容
社会課題	畜産業の人手不足／成長把握が不完全
技術的優位性	周回することなくカメラ1画角から高速に判定／固定式にも対応
将来展望	飼育最適化・疾病予測／他分野（物流・建機）へ展開

※生産者、飼料会社、獣医師等向け丸紅プラットフォーム<https://beeco.eco/>

免責事項

当社が作成した本資料は、情報提供を目的としており、当社の有価証券の買い付けや売り付け申し込みの勧誘を意図していません。将来予測に関する記述は、当社の見解や仮定、現在利用可能な情報に基づいておりますが、将来予測には多くのリスクや不確定要素が存在し、実際の業績は予測とは大きく異なる可能性があります。

この資料は、当社以外の情報も含まれており、それらは公開情報に基づいていますが、当社はこれらの情報の正確性や適切性について独自の検証を行っておらず、保証していません。

なお、当資料のアップデートは今後定時株主総会後（3月下旬）を目途として開示を行う予定です。